Hakken

油圧ウォールカッター

CHW－50A

取 扱 説 明 書

◎ このたびはお買い上げいただき、ありがとうございました。

◎ ご使用前に、この「取扱説明書」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく安全に使用してください。

◎ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に大切に保管してください。

CONSEC CORPORATION

注意文の「⚠警告」、「⚠注意」、「ポイント」の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠警告」、「⚠注意」と「ポイント」に区分していますが、それぞれ次の意味を現します。

⚠警告：誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意：誤った取扱いをした時に、使用者が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

ポイント：製品の据付け、使用方法、メンテナンスに関する重要な事項。

なお、「⚠注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

目 次

１．警告 および 注意
【１】油圧機械の安全上のご注意 …… ２
【２】油圧ウォールカッターの使用上のご注意 …… ４
２．各部の名称 …… ６
３．仕 様 …… ７
４．標準付属品 …… ７
５．用 途 …… ８
６．オプション品（別売）…… ８
７．使用時全体図 および 仕様
【１】ＣＨＷ－５０Ａ完成外観図 …… １０
【２】ＣＨＷ－５０Ａ標準仕様図（E-1812A） …… １２
【３】油圧ユニットの違いによるダイヤモンドブレードの最高回転数[min^{-1}] …… １２
【４】 ＣＤＷ二条切りアタッチメント取付（ブレード半カバー）仕様 …… １３
【５】際切り用ブレード受け取付仕様 …… １４
【６】油圧ユニットの吐出量設定表 ： 電源周波数５０Ｈｚ地域 …… １５
【７】油圧ユニットの吐出量設定表 ： 電源周波数６０Ｈｚ地域 …… １５
８．自動送り装置 ＢＥ－３１Ａ（オプション品）の操作方法
【１】自動送り装置ＢＥ－３１Ａのパネル面 …… １６
【２】自動送り装置ＢＥ－３１Ａによる油圧ウォールカッターの操作方法 …… １６
９．使用方法
【１】油圧ユニット E-1812A の準備 …… １７
【２】トラックレール １２００ＬＡ 取付用のアンカー施工 …… ２１
【３】油圧ウォールカッターの取付け …… ２２
【４】ダイヤモンドブレードの取付け …… ２３
【５】自動送り装置ＢＥ－３１Ａの接続 …… ２３
【６】トラックレールの連結 …… ２３
【７】ブレードカバーの取付け …… ２５
【８】給水準備 …… ２５
【９】飛散水の処理対策 …… ２５
【10】切断作業 …… ２６
【11】取りはずし作業 …… ２９
10. 油圧ウォールカッターの分離・組付け方法 …… ３１
11. ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずし
【１】ダイヤモンドブレードの取付け …… ３２
【２】ダイヤモンドブレードの取りはずし …… ３２
12. 作業中のトラブルと対策
【１】作業中のトラブルと対策方法 …… ３３
【２】ダイヤモンドブレードがロックした場合の解決方法例 …… ３４
13. 油圧モータ組の取付け …… ３５
14. 保守・点検・修理
【１】保 守 …… ３６
【２】点 検 …… ３６
【３】定期点検 …… ３６
【４】修理について …… ３６
15. 製品の保管 …… ３７

1．警告 および 注意

◎ 火災・感電・けがなどの事故を未然に防ぐために、 次に述べる「油圧機械の安全上のご注意」「油圧ウォールカッターの使用上のご注意」を必ず守ってください。

◎ ご使用前に、 この「警告および注意」すべてをよくお読みの上、 指示に従って正しく使用してください。

◎ お読みになった後は、 お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

【1】油圧機械の安全上のご注意

⚠ 警 告

1. **指定された用途以外に使用しないでください。**

2. **作業者以外、 施工場所へ近づけないでください。**
   ◎ 作業者以外、 油圧ユニット・油圧機器・自動送り装置やコード・ホースに触れさせないでください。

3. **施工場所の周囲状況も考慮してください。**
   ◎ 油圧ユニット・自動送り装置などの電気機器は、 雨中で使用したり、 湿った、 または、 ぬれた場所で使用しないでください。
   ◎ 施工場所は十分明るくしてください。
   ◎ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
   ◎ ちらかった施工場所は、 事故の原因となります。

4. **きちんとした服装で作業してください。**
   ◎ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、 回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。
   ◎ 屋外での作業の場合には、ゴム手袋と滑り止めのついた履物の使用をお勧めします。
   ◎ 長い髪は、 帽子やヘアカバーなどで覆ってください。

5. **保護めがねを使用してください。**
   ◎ 作業時は、 保護めがねを使用してください。 また、 粉じんの多い作業では、 防じんマスクを併用してください。

6. **無理な姿勢で作業をしないでください。**
   ◎ 常に足元をしっかりさせ、 バランスを保つようにしてください。

7. **油断しないで十分注意して作業を行ってください。**
   ◎ 各機器を使用する場合は、取扱方法・ 作業の仕方・ 周りの状況など十分に注意して慎重に作業してください。
   ◎ 回転物には、 手や身体を近づけないでください。 巻き込まれたり、 けがをする恐れがあり危険です。
   ◎ 可動部分や接続部分などに、 手や足を挟まないように注意してください。
   ◎ 疲れている場合は、 使用しないでください。

⚠警 告

8. 感電に注意してください。
◎ 油圧ユニットは必ず接地（アース）してください。
◎ 漏電遮断器の設置してある電源を使用してください。
◎ 作業中は必ずゴム手袋・ゴム長靴を着用してください。

9. コードやホースを乱暴に扱わないでください。
◎ コードやホースを持って機器を運ばないでください。
◎ コードを引張ってコンセントから抜かないでください。
◎ コードやホースを熱・ 油・ 角のとがった所に近づけないでください。

10. 指定の付属品やオプション品を使用してください。
◎ 本取扱説明書およびコンセックカタログに記載されている付属品やオプション品以外のものを使用すると、 事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

11. 損傷した部品がないか点検してください。
◎ 使用前に、 保護カバー・コード・ホースやその他の部品に損傷がないか十分点検し、 正常に作動し、 所定機能を発揮するか確認してください。
◎ 可動部分の位置調整および締付け状態、 部品の破損、 取付け状態、 その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
◎ スイッチで起動および停止操作のできない機器は、 使用しないでください。
◎ 損傷・故障した部品交換や修理は、 取扱説明書の指示に従ってください。
◎ 取扱説明書に指示されていない場合は、 お買い求めの販売店または、 コンセック各営業所に修理を依頼してください。

12. 次の場合は、 油圧ユニットを停止してください。
◎ 油圧ホースの接続、 取りはずしを行う場合。
◎ 刃物などの付属品を交換する場合。
◎ 修理する場合。
◎ 使用中に油圧ユニットから異音を発したとき。
◎ その他危険が予想される場合。

13. 調節キーやレンチなどは、 必ず取りはずしてください。
◎ 電源を入れる前に、 点検・調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

14. 各機器は、 注意深く手入れをしてください。
◎ 注油や付属品の交換は、 取扱説明書に従ってください。
◎ 握り部は、 常に乾かしてきれいな状態に保ち、 油やグリースが付かないようにしてください。

15. 使用しない場合は、 きちんと保管してください。
◎ 乾燥した場所で、 お子様の手の届かない安全な所または、 錠のかかる所に保管してください。

16. 各機器の修理は、 専門店に依頼してください。
◎ 本製品は、 該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。
◎ 修理の知識や技術のない方が修理しますと、 十分な性能を発揮しないだけでなく、 事故やけがの原因となります。
◎ 修理は、 必ずお買い求めの販売店または、 コンセック各営業所にお申し付けください。

【2】油圧ウォールカッターの使用上のご注意

⚠ 警 告

1. **油圧ユニットは、当社オプション品の油圧ユニットを使用してください。**
   ◎ 各油圧ユニットの取扱説明書をよくお読みの上、 理解した後にご使用ください。

2. **電線管などの埋設物に注意してください。**
   ◎ 電気が流れている電線や電線管などに接触すると感電する恐れがあります。
   ◎ 壁・ 床などの切断を行う場合は、 埋設物のチェックを十分に行ってください。

3. **ブレードカバーは必ず使用してください。**
   ◎ 切削水の飛散防止・回転中のダイヤモンドブレードの破損によるけがの防止、 及び巻き込まれ防止のため、 ブレードカバーを使用してください。

4. **天井面への切断作業はしないでください。**
   ◎ 本製品は水を使用するため、 水がブレードカバー内部に溜まり落下する可能性があり、 非常に危険です。

5. **高所での作業は、 関係法令に従って作業してください。**
   ◎ 壁面切断作業においては、トラックレールへの油圧ウォールカッターの取付けおよび取りはずしは、 足場を架設して低い位置で行ってください。
   ◎ 壁面切断作業においては、 油圧ウォールカッターなどが落下すると大変危険ですので、 落下防止対策を行ってください。
   ◎ 高所での作業の場合は、 十分にスペースのあるしっかりした足場を確保してください。
   ◎ 高所での作業の場合は、 施工場所の下に人を入れないようにしてください。

6. **トラックレールはしっかり固定してください。**
   ◎ 正しく固定することは非常に重要です。 固定がきちんと行われないと、 切断中にガタつきやチップの噛み込みにより、 ダイヤモンドブレードが損傷する恐れがあります。

7. **トラックレールから油圧ウォールカッターの脱落に注意してください。**
   ◎ 旋回レバーが閉方向に正しく固定されていないと、トラックレールからはずれる恐れがあり大変危険です。
   ◎ トラックレールの端面まで走行した場合、 油圧ウォールカッターが落下する恐れがあり大変危険ですので、 走行中は目を離さないようにしてください。

8. **貫通側の安全面に注意してください。**
   ◎ ダイヤモンドブレード貫通側は大変危険です。 また、 切削水が飛散したりすることがありますので、 人や物に当たらないように、 防護対策や処理方法を確実に行い、 作業を始めてください。

9. **壁・床面の切断コンクリート片の落下、 倒れなどに注意してください。**
   ◎ 壁・床面への開口部新設工事には、 切断されたコンクリート片が落下、 倒れがないように安全対策を十分に考慮した上で施工してください。

10. **異常時には、 ただちにダイヤモンドブレードの回転を止めてください。**
    ◎ 切断中にダイヤモンドブレードが止まったり、 異音を発したときは、 ただちに油圧ユニットのリモートコントロールスイッチの『停止』ボタンを押し、 ダイヤモンドブレードの回転を止めてください。

⚠ 警 告

11. 切替バルブの開閉は、ゆっくり行ってください。
◎ ダイヤモンドブレードの回転中に切替えバルブを急に閉じると、その反動でブレード押さえがゆるみ、ダイヤモンドブレードがはずれる恐れがあり大変危険です。

12. 切断作業時以外は、油圧ユニットを停止させてください。
◎ 油圧モータが不意に起動しないよう、切断作業時以外は、油圧ユニットを停止させてください。

⚠ 注 意

1. 無理して使用しないでください。
◎ 安全に能率よく作業するために、機器の能力に合った仕様で作業してください。

2. ダイヤモンドブレードを使用してください。
◎ この機械はダイヤモンドブレードを使うように設計されています。ダイヤモンドブレード以外の刃物は使わないでください。

3. 切断するときは必ず給水を行ってください。
◎ ダイヤモンドブレードは加熱すると、チップが脱落して切断不能となりますので、必ず給水を行ってください。
◎ 清水以外の水を使用すると、油圧ウォールカッターなどの故障の原因となります。必ず清水を使用してください。

4. 切断面に接した状態で、ダイヤモンドブレードを回転させないでください。
◎ ダイヤモンドブレードや油圧ウォールカッターの破損の恐れがあります。

5. 切断作業は回転が上がってから行ってください。
◎ 切断作業は、ダイヤモンドブレードの回転が完全に上がってから行ってください。

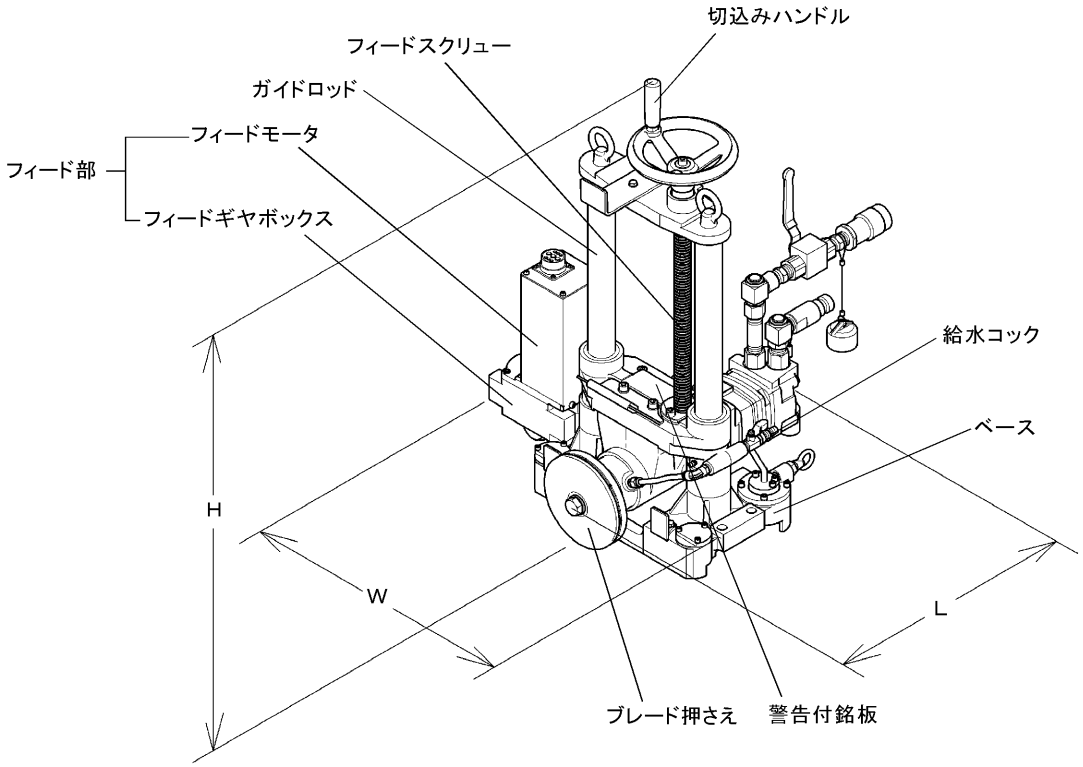
6. 無理な切込みは避けてください。
◎ 一度の切込み深さを大きくしますと、機械への負担が大きくなるばかりではなく、切削速度も遅くなりますので、無理な切込みは避けてください。

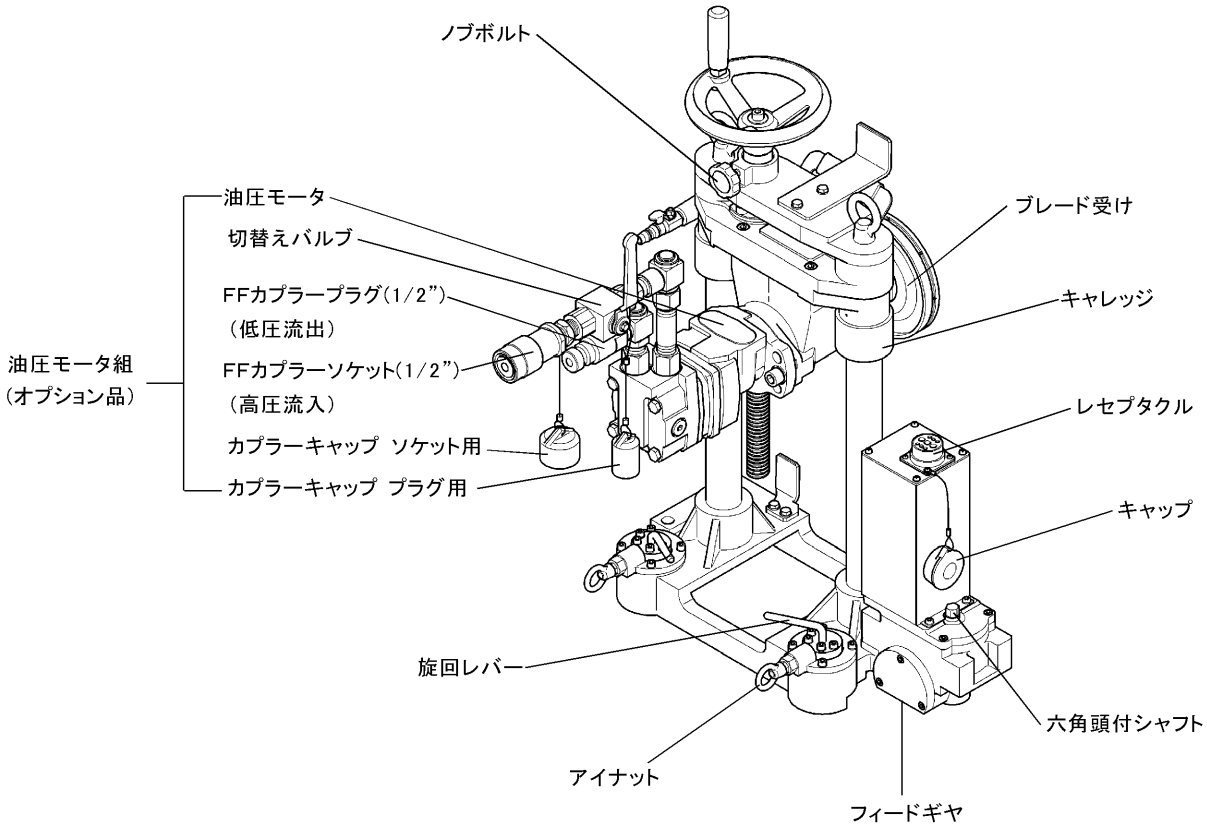
7. 切断途中でダイヤモンドブレードの回転を止めたり、ダイヤモンドブレードをロックさせたりしないでください。
◎ ダイヤモンドブレードのチップの破損や、油圧ウォールカッターの破損の恐れがあります。

8. 切断は、できるだけ順方向切断（アッパーカット）を行ってください。
◎ 逆方向切断（ダウンカット）では、ダイヤモンドブレードの回転により、油圧ウォールカッターを送り方向に進めようとする力が働き、走行が安定せず、切断能力が低下することがあります。

9. 油圧ウォールカッターに取付けたダイヤモンドブレードを手で回さないでください。
◎ 油圧ユニットと油圧ホースで接続していない場合には、油圧モータが故障することがあります。

2．各部の名称

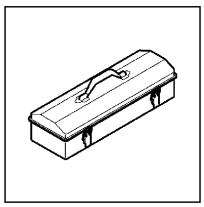

切込みハンドル
フィードスクリュー
ガイドロッド
フィードモータ
フィード部
フィードギヤボックス
給水コック
ベース
H
W
L
ブレード押さえ
警告付銘板


ノブボルト
油圧モータ
切替えバルブ
FFカプラープラグ(1/2")
（低圧流出）
FFカプラーソケット(1/2")
（高圧流入）
油圧モータ組
（オプション品）
カプラーキャップ ソケット用
カプラーキャップ プラグ用
ブレード受け
キャレッジ
レセプタクル
キャップ
旋回レバー
六角頭付シャフト
アイナット
フィードギヤ

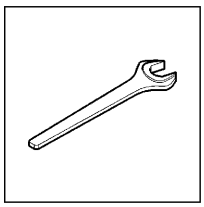
3．仕 様

型式名		CHW－50A		
油圧モータ組 型式名		2060－12A	HB05－16A	HB08－24A
押しのけ容量［cc/rev］		64	89	127
定格回転数［min^{-1}］		850	898	746
最大流量［L/min］		54	79	95
定格トルク［daN－m］		19	24	34
定格圧力［MPa］		21		
適用ブレード径	mm	782	1016	1220
	インチ	30	40	48
ブレード穴径［mm］		35		
最大切込み深さ（新品ブレード取付時）［mm］	782mm（30”）	301		
	1016mm（40”）	－	418	
	1220mm（48”）	－		520
定格送り速度［mm/min］		632		
定格送り推力［N］		1785		
質量［kg］		28		
W［mm］		484	484	484
L［mm］		410	434	440
H［mm］		741	741	741
質量（油圧モータ組を含む）［kg］		40	41	41

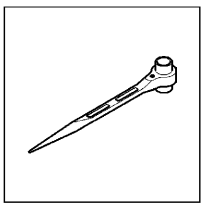
4．標準付属品



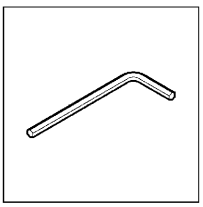
工具箱
Y－455
… 1ケ



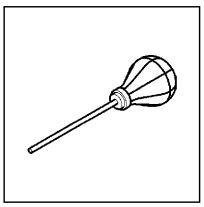
片口スパナ
24mm
…1ケ



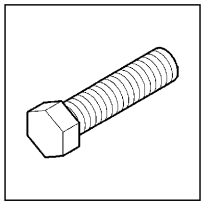
ラチェットレンチ
14×17mm
… 1ケ



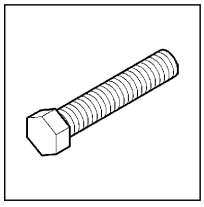
六角棒レンチ
5・6mm
… 各1ケ



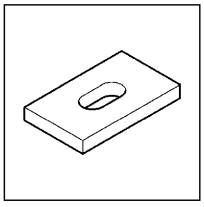
チリ吹き
… 1ケ



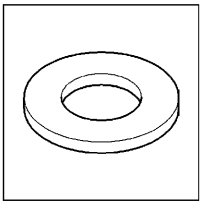
六角ボルト
W3／8×38mm
… 8ケ



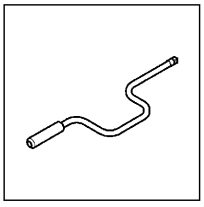
六角ボルト
W3／8×50mm
… 8ケ



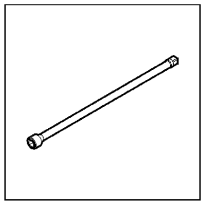
角座金
W3／8×50×30×t6
… 8ケ



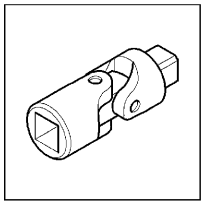
平座金
W3／8
… 8ケ



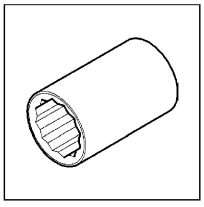
スピーダー
204
… 1ケ



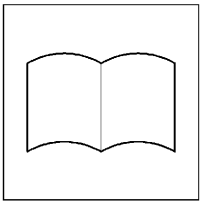
エクステンションバー
307
… 1ケ



ユニバーサルジョイント
208
… 1ケ



ソケット
3D－13
… 1ケ



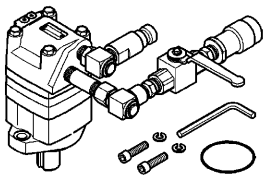
取扱説明書
… 1ケ

５．用 途

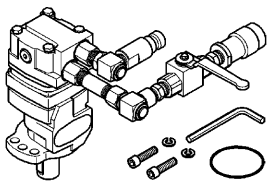
◎ 鉄筋コンクリート構造物の床面、および壁面（平面であること）の切断。
【例】鉄筋コンクリート構造物の開口部の製作。

６．オプション品 （別売）

油圧モータ組



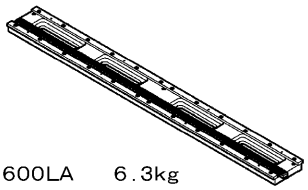
2060－12A 12.0 kg



HB05－16A 13.0kg
HB08－24A 13.3kg

必要な能力に応じて選択可能な油圧モータ組です。

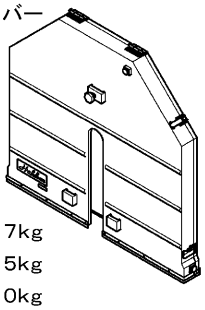
トラックレール



600LA 6.3kg
1200LA 12.5kg
1800LA 18.8kg

専用トラックレールで長さは、600L,1200L,1800Lの３種類があります。

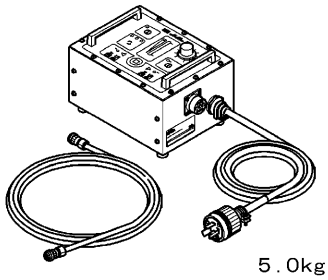
ブレードカバー



30A 9.7kg
40A 13.5kg
48A 18.0kg

専用ブレードカバーで、サイズは、３０”，４０”，４８”用があります。

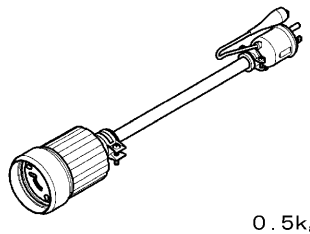
自動送り装置 BE－31A



5.0kg

ウォールカッターと接続し、切断時のコントロールを行います。

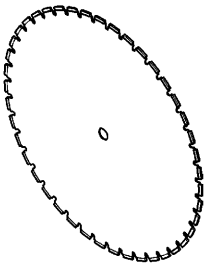
変換アダプタ組
30Aコネクタ→15Aプラグ



0.5kg

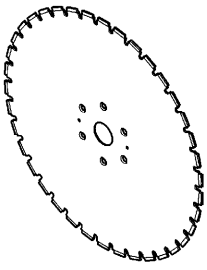
アメリカン電機製コネクタ（30A）を取付けた、15Aプラグからの変換アダプタです。

ダイヤモンドブレード



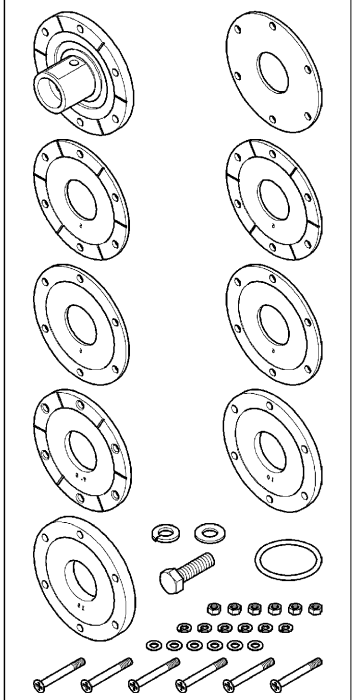
ウォールカッター用ダイヤモンドブレードで、セグメントタイプです。CW－１，CW－２（薄刃消音）があります。

CDW二条切消音ブレード



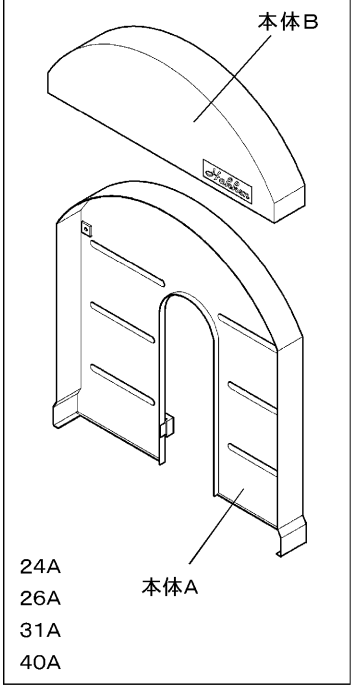
二条切用で消音タイプのダイヤモンドブレードです。サイズは１８”から４８”まであります。

CDW二条切フランジセット



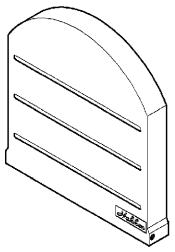
二条切りや、壁際切断のとき、標準のブレード受けを組替えて使用します。

CDW二条切ブレード半カバー



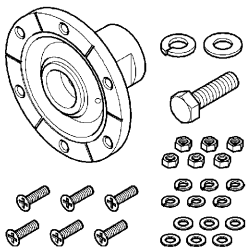
二条切りや、壁際切断するときに、使用します。サイズは、24”，26”，31”，40”があります。

CDW二条切ブレード全カバー



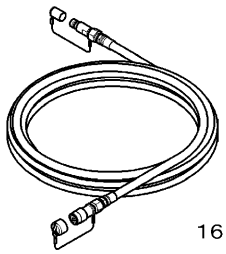
二条切りするときに使用します。サイズは、24”，26”，31”，40”があります。

際切り用ブレード受け



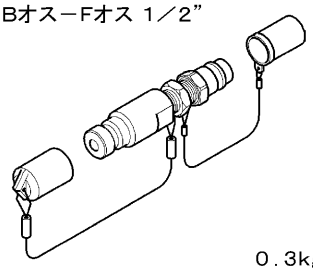
壁際切断のときに、標準ブレード受けを組替えて使用します。ブレードはＣＤＷ二条切消音ブレードを使用してください。

油圧ホース　5／8”組
FFプラグ－ソケット 20m



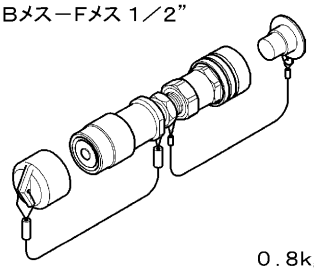
油圧ユニット E-1812A・E-1114Aの延長用油圧ホースです。２本必要です。（油圧作動油は入っていません。）

変換アダプタ
Bオス－Fオス 1／2”



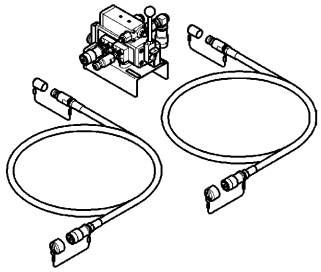
ＢＳカプラー（ブリヂストン）仕様の油圧機器を使用する場合、油圧ホース接続のカプラ変換（オス側）に使用します。

変換アダプタ
Bメス－Fメス 1／2”



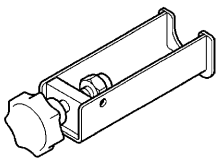
ＢＳカプラー（ブリヂストン）仕様の油圧機器を使用する場合、油圧ホース接続のカプラ変換（メス側）に使用します。

油圧メイン制御装置



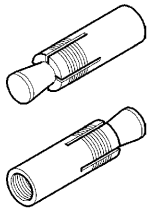
油圧機器の始動時のショックを抑え任意の速度で運転ができます。油圧ユニットG-2800Aの場合は、変換アダプタが各１個必要となります。

油圧ホース圧抜き工具



油圧ホース５／８”組　ＦＦプラグ－ソケット２０ｍで油圧ユニットのカプラーに差し込めないときに、油圧ホースの内圧を抜取る工具です。

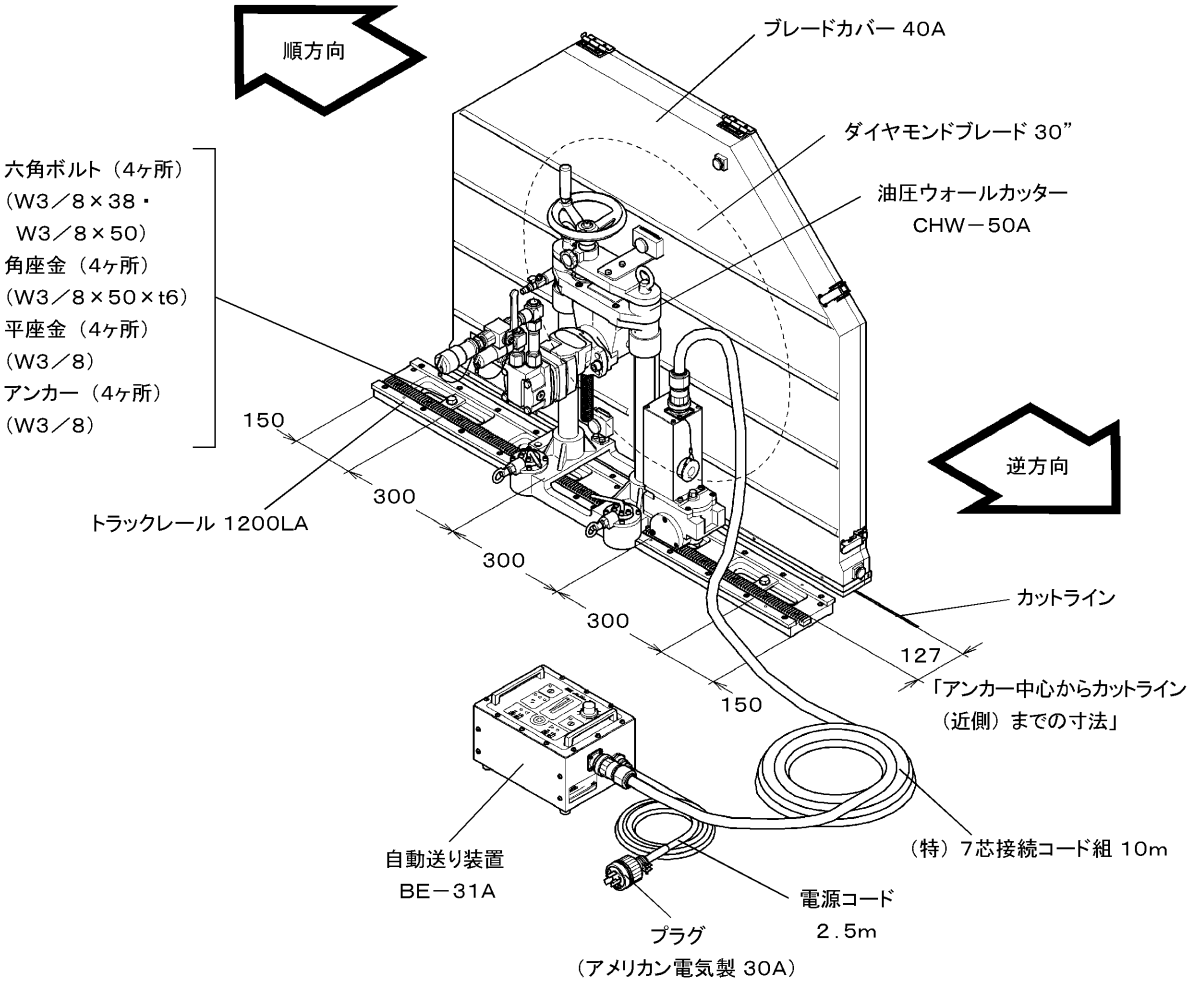
カットアンカー
MA－300



コンクリートなどに施工して、トラックレールを固定します。

7．使用時全体図 および 仕様

【1】CHW－50A 完成外観図



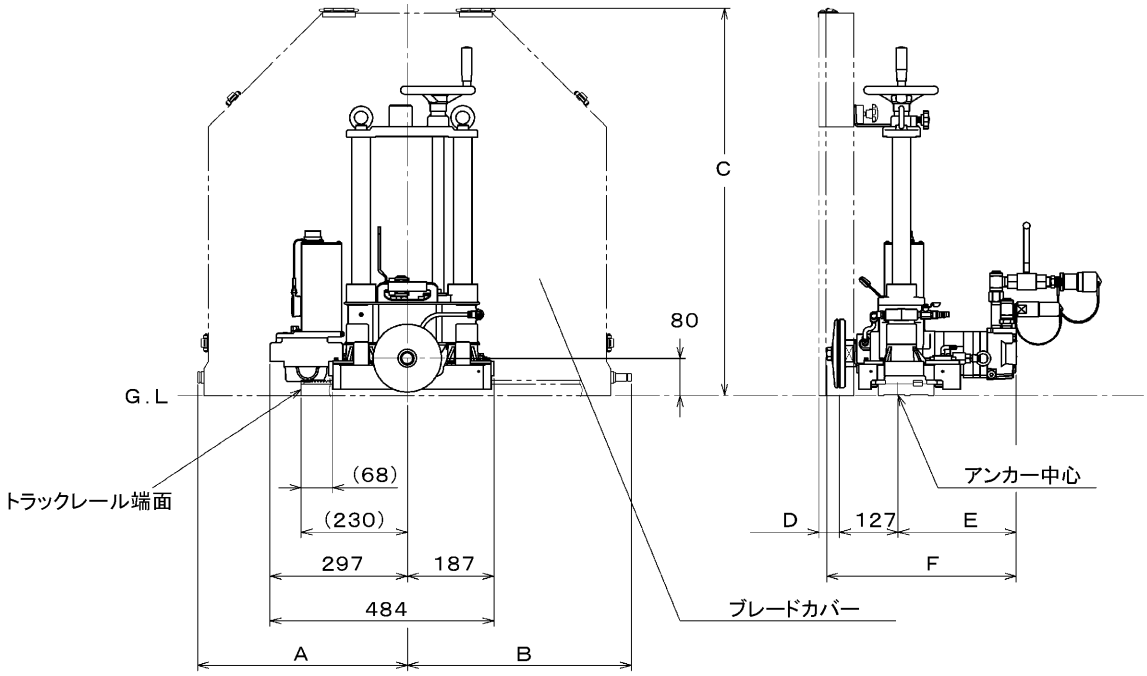
◎ダイヤモンドブレードの違いによる切込み深さと切断幅

ブレード		先行溝の深さ [mm]	切込み深さに対する切断幅[mm]					最大切断幅 [mm]	最大切込み深さ [mm]
呼び径	外径[mm] (型式)		100mm	200mm	300mm	400mm	500mm		
30”	768 (CW－1)	－	517	674	－			746	294
	766 (CW－2)	－	516	673	－			744	293
40”	1016	98．5	605	808	927	－		1000	418
48”	1220	200．5	－		1050	1145	1200	1206	520

○ ダイヤモンド　ブレードの外径寸法は各商品により異なりますので、 先行溝の深さ・最大切込み深さは次の計算にて算出してください。

先行溝の深さ ＝ ブレード外径 × 1／2 － 409．5mm

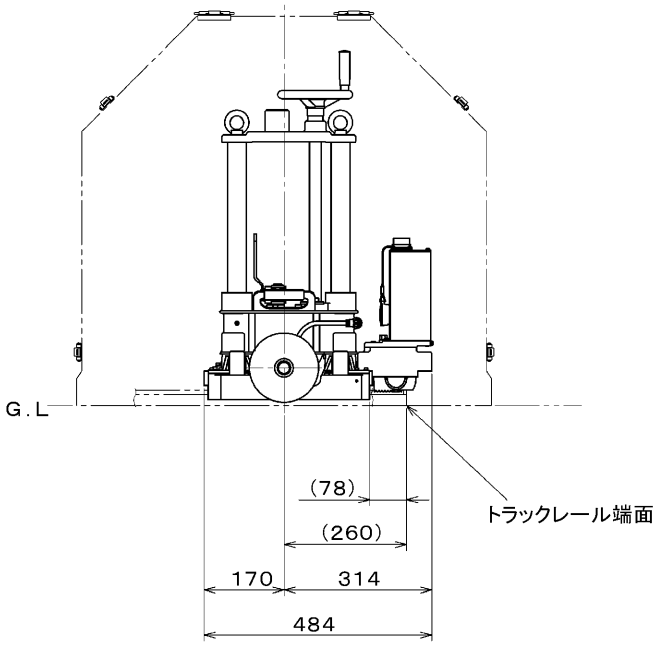
最大切込み深さ ＝ ブレード外径 × 1／2 － 94mm



標準仕様

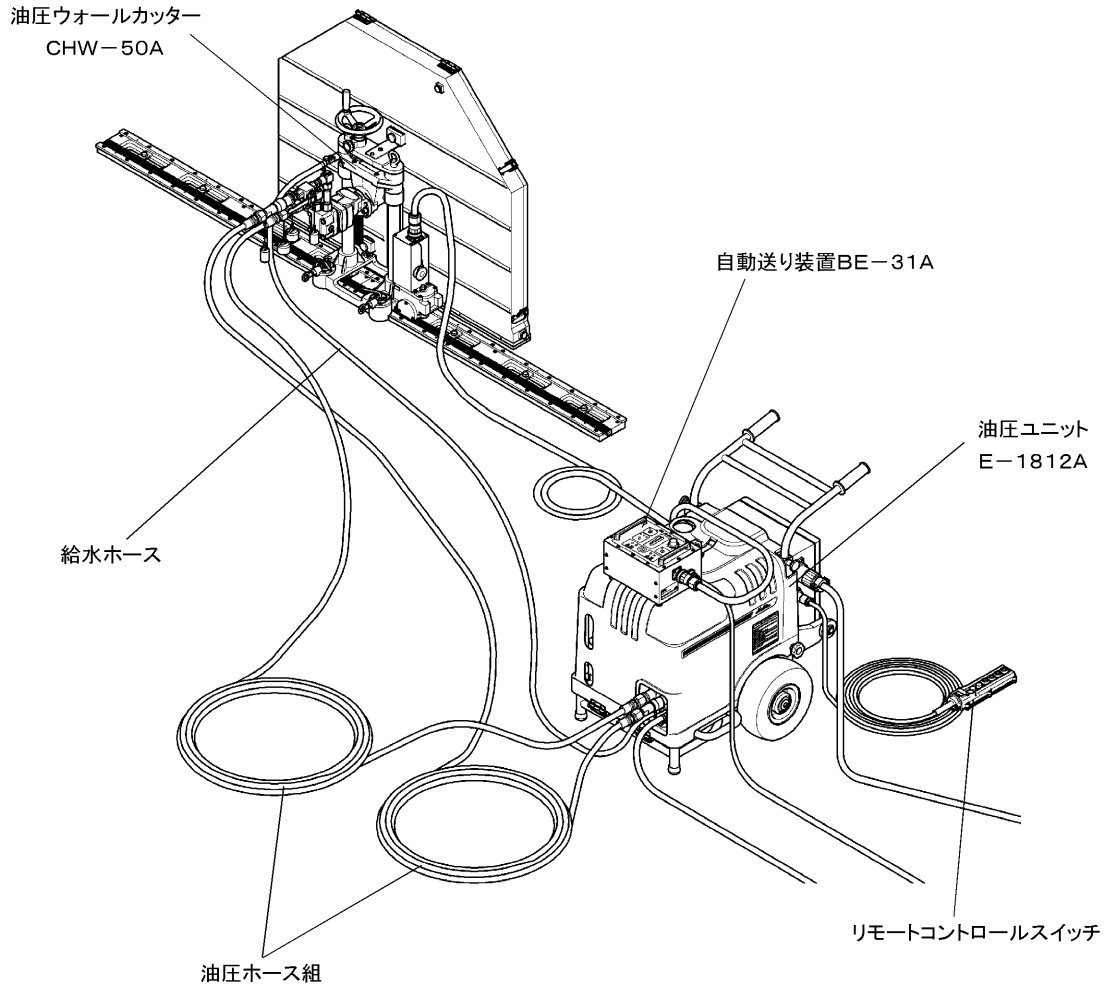
ブレードカバー 型式名	A	B	C	D
30A	454	484	837	45
40A	580	610	963	45
48A	671	701	1075	62

油圧モータ組 型式名	E	F
2060－12A	256	410
HB05－16A	280	434
HB08－24A	286	440



フィード部の位置を変更した場合

【2】CHW－50A 標準仕様図 (E-1812A)

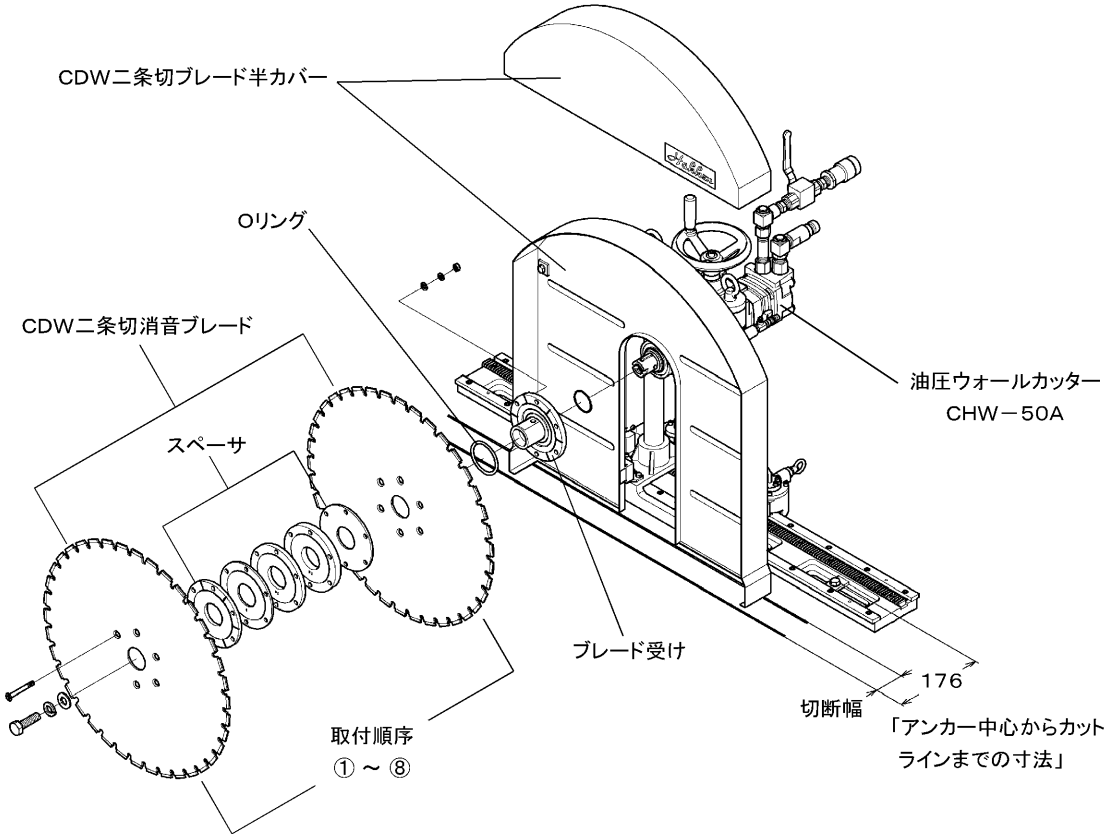


【3】油圧ユニットの違いによるダイヤモンドブレード最高回転数 [min^{-1}]

油圧ユニット	油圧モータ組 型式名 / 周波数	2060－12A	HB05－16A	HB08－24A
E－1114A E－1104A	50Hz	659	474	332
	60Hz	792	569	399
E－1812A E－1802A	50Hz	739	531	372
	60Hz	注）850	635	445
G－2800A	－	781	562	394
E－1100R E－1100	50Hz	637	458	321
	60Hz	765	551	385

注）60Hz地域で油圧ユニットE－1812A，E－1802Aと油圧モータ組2060－12Aを組み合わせて使用する場合は、吐出量設定用蝶ボルトの締込み回数が1／2以下（吐出量：54L/min 以上）では、油圧モータの最高回転数を越えてしまいます。締込み回数1／2以上で使用してください。

【4】CDW二条切アタッチメント取付（ブレード半カバー）仕様



切断幅	取付順序								
	Oリング	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
50mm	無	ブレード	5mm溝	5mm	10mm	15mm	－	7．5mm溝	ブレード
45mm	有	5mm溝	ブレード	5mm溝	10mm	15mm	－		
40mm		5mm	5mm溝	ブレード	5mm溝	5mm	15mm		
35mm		10mm	5mm溝	ブレード	5mm溝	15mm	－		
30mm		15mm	5mm溝	ブレード	5mm溝	10mm	－		
25mm		5mm	15mm	5mm溝	ブレード	5mm溝	5mm		
20mm		10mm	15mm	5mm溝	ブレード	5mm溝	－		
1枚切断		3mm黒	5mm	5mm	10mm	15mm	－		

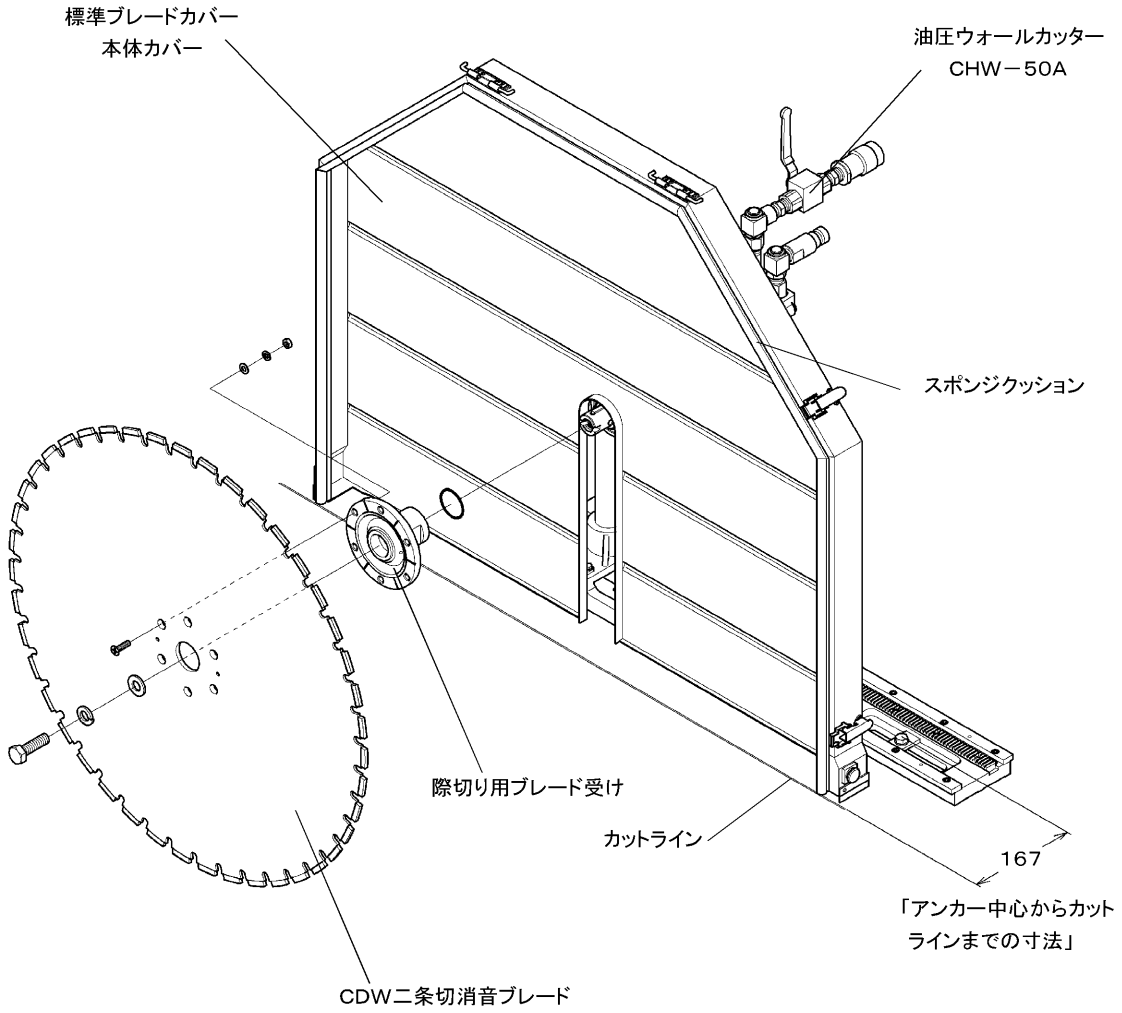
⚠ 注 意

切断面に注水するため、5mm溝および7．5mm溝のブレードに接するスペーサは、溝のある面をブレードに接触するように取付けてください。

ポイント

ブレード受けの取付けに、ラチェットレンチ24mmが必要です。

【5】際切り用ブレード受け取付仕様



⚠ 警 告
1. 本体カバーのみでの切断は、片面が開いた状態なので非常に危険です。壁際などの際切り以外には使用しないでください。 2. 切削水の飛散防止、回転中のダイヤモンドブレードの破損によるけがの防止、および巻き込まれを防止のため、ブレードカバー本体のスポンジクッションは壁面などに密着させ、周囲に危険が及ばないように、防護板を設置するなどの対策を行ってください。

ポイント
際切り用 ブレード受けの取付けに、ラチェットレンチ24mmが必要です。

【6】油圧ユニットの吐出量設定表 ： 電源周波数50Hz地域

油圧ユニット	油圧モータ組型式名	ブレード径			
		26”	30”	40”	48”
E－1812A E－1802A	2060－12A	2 1/2	3 1/2	最大	－
		0	1 1/2	4	5 1/2
	HB05－16A	－	1	3 1/2	4 1/2
		－	－	1 1/2	3
	HB08－24A	－	－	－	2
		－	－	－	注2）
E－1114A E－1104A	2060－12A	0/7	0/6	0/3	－
		－	0/8	0/5	0/4
	HB05－16A	－	－	0/6	0/3
		－	－	全開	0/7
	HB08－24A	－	－	－	0/8
		－	－	－	注2）
G－2800A	2060－12A	4 1/2	6 1/2	10	－
		1	3 1/2	7	9 1/2
	HB05－16A	－	2	6	8
		－	－	3 1/2	5
	HB08－24A	－	－	1	3 1/2
		－	－	－	0
E－1100R E－1100	2060－12A	1 1/2	3 1/2	6	7 1/2
		－	0	4	5 1/2
	HB05－16A	－	－	3 1/2	4 1/2
		－	－	注2）	2
	HB08－24A	－	－	－	1/2
		－	－	－	注2）

注1）周速は、 上側 1200m/min、 下側 1500m/min で計算しております。
注2）最大吐出量に設定しても周速 1500m/min になりません。
注3）この油圧ユニットの吐出量設定表はあくまでも目安です。被削物によって条件が変わりますので、その場合は吐出量は変更してください。
注4）油圧ユニット E-1114A、 E-1104A の吐出量はダイヤル式です。

【7】油圧ユニットの吐出量設定表 ： 電源周波数60Hz地域

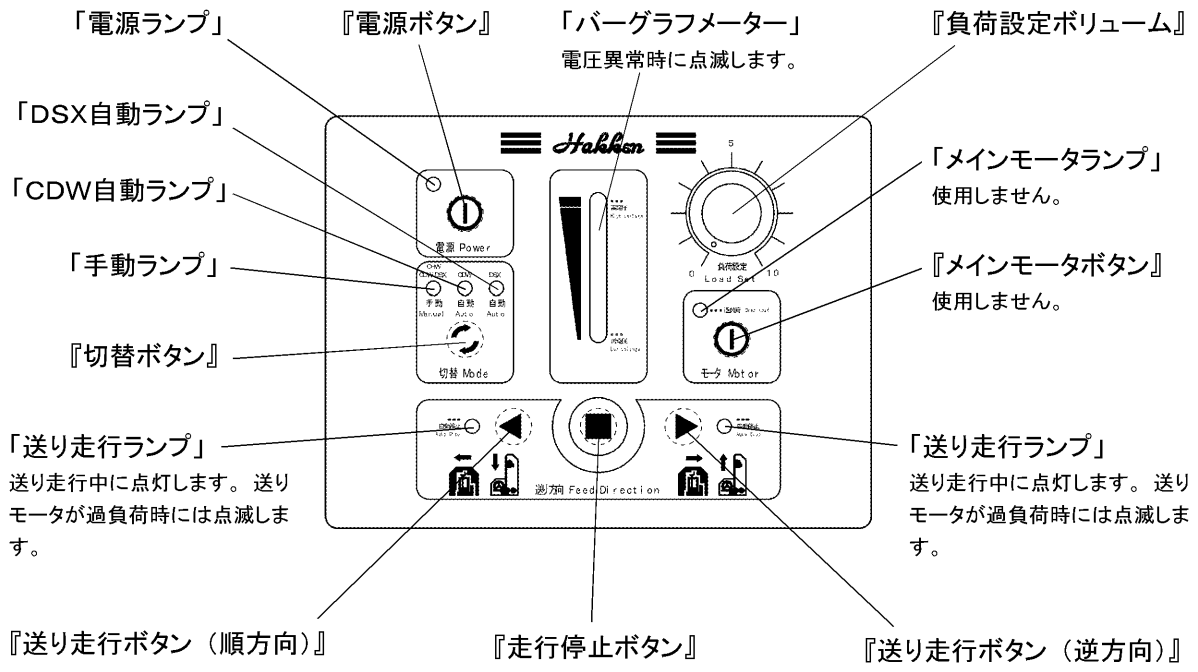
油圧ユニット	油圧モータ型式	ブレード径			
		26”	30”	40”	48”
E－1812A E－1802A	2060－12A	4	5	－	－
		2	3 1/2	5 1/2	－
	HB05－16A	1	2 1/2	4 1/2	－
		－	0	3	4 1/2
	HB08－24A	－	－	1 1/2	3 1/2
		－	－	－	1 1/2
E－1114A E－1104A	2060－12A	0/5	0/4	-	－
		0/8	0/6	0/3	－
	HB05－16A	－	0/7	0/4	全閉
		－	－	0/7	0/5
	HB08－24A	－	－	0/8	0/6
		－	－	－	全開
G－2800A	2060－12A	4 1/2	6 1/2	10	－
		1	3 1/2	7	9 1/2
	HB05－16A	－	2	6	8
		－	－	3 1/2	5
	HB08－24A	－	－	1	3 1/2
		－	－	－	0
E－1100R E－1100	2060－12A	3 1/2	5	7 1/2	8 1/2
		1	2 1/2	5 1/2	7
	HB05－16A	－	1 1/2	4 1/2	6 1/2
		－	－	2	4 1/2
	HB08－24A	－	－	1/2	2 1/2
		－	－	－	注2）

注1）周速は、 上側 1200m/min、 下側 1500m/min で計算しております。
注2）最大吐出量に設定しても周速 1500m/min になりません。
注3）この油圧ユニットの吐出量設定表はあくまでも目安です。被削物によって条件が変わりますので、その場合は吐出量は変更してください。
注4）油圧ユニット E-1114A、 E-1104A の吐出量はダイヤル式です。

８．自動送り装置ＢＥ－３１Ａ(オプション品)の操作方法

◎ 自動送り装置BE－30Aも使用できます。 操作方法は、 ほとんど同じです。

【1】自動送り装置BE－31Aのパネル面



【2】自動送り装置BE－31Aによる油圧ウォールカッターの操作方法

⚠ 警 告
1. 自動送り装置BE－31Aの操作は、油圧ウォールカッターを使用する作業者が行ってください。 2. 遠隔操作を行う場合、油圧ウォールカッター周辺の安全を確認した上で操作してください。

1) 自動送り装置BE－31Aの『電源ボタン』を押してください。（「電源ランプ」が点灯します。）

2) 「手動ランプ」が点灯していることを確認してください。 そうでない場合は『切替ボタン』を押して、「手動ランプ」を点灯させてください。

3) 『負荷設定ボリューム』を、「目盛0」に合わせてください。

4) 『送り走行ボタン（順方向）』または『送り走行ボタン（逆方向）』を押してください。

5) 油圧ユニットの圧力計を見ながら、油圧モータの負荷が一定になるように『負荷設定ボリューム』で送り速度を調整してください。『負荷設定ボリューム』の位置に比例した送り速度になります。（0の位置で停止、10 の位置で最大速度です）

6) 送り走行を停止させるときは、『走行停止ボタン』を押してください。

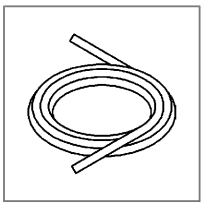
９．使用方法

⚠ 警 告
切断作業時に切片部の落下防止等、危険防止措置のための、安全対策を行った上で切断作業を行ってください。

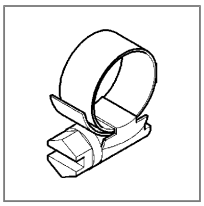
◎ この項目は、油圧ユニット E-1812A を使用した場合の使用方法を説明しています。油圧ユニット E-1812A の取扱説明書を、お読みになった上でご使用ください。

【1】油圧ユニット E-1812A の準備

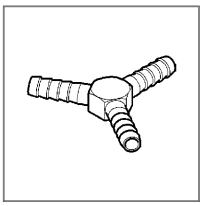
準備するもの



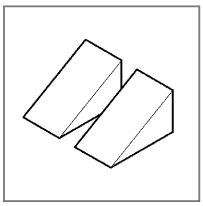
給水ホース
… 必要数



ホースバンド
… 必要数



三方継手
… 必要数



車輪止め
… 最低2ケ

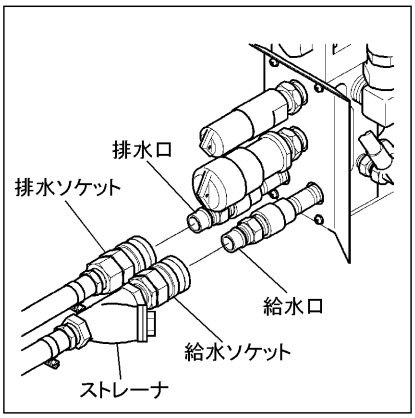
1．電源接続

◎ 油圧ユニット E-1812A を電源に接続してください。

⚠ 警 告
1．感電に注意してください。漏電遮断器の設置してある電源を使用してください。 2．電源コードを電源に接続するときは、発電機のエンジン・分電盤のブレーカは、必ず切った状態で接続し、必ずアース線（緑色線）も接続してください。

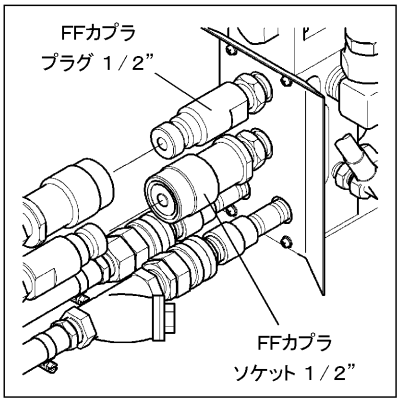
2．給水ホース・油圧ホース組の接続

1）水道からのホースを給水ソケットにつなぎ、油圧ユニットの給水口に差込み、油圧ウォールカッターへの給水ホースを排水ソケットにつなぎ、排水口に差込んでください。ホースは給排水ソケットにホースバンドで固定してください。



⚠ 注 意
1．本書では油圧ユニット冷却用の給水と、切削用の給水を兼用する状態で説明してますが、作業中において、油圧作動油の油温の影響で、給水量に差が生じた場合は、分岐するか、それぞれ単独で給水を行ってください。 2．給水量は10L/min 以上で油圧作動油が 20℃～60℃になるよう調整してください。 3．給水は必ず清水を使用してください。

2）油圧ユニットのFFカプラーに油圧ホース組5／8”を接続してください。



⚠ 注 意

1. FFカプラーは、カチッというところまで押込んで接続してください。
2. FFカプラーにゴミ・泥などが付着しているときは、きれいな布などで拭きとってから接続してください。
3. 延長用にオプションの油圧ホース組を使用する場合は、ホース内に作動油が入っていないため、タンク内の油量が減少します。このため、油圧機器を接続しないで、油圧ユニットと新しい延長ホースの吐出・戻りをループ状（環状）に接続し、リモートコントロールでインチング（寸動）を行い油面計で確認しながら給油してください。延長ホースは必ず1本ずつ接続し給油を行ってください。2本同時に接続しますと油量の急激な減少により故障の原因になります。（油圧ホース組1本当たり、約6Lの給油が必要です。）

ポイント

油圧ユニットG－2800A，E－1100R，E－1100を接続する場合は、オプション品の「変換アダプタ」が必要です。

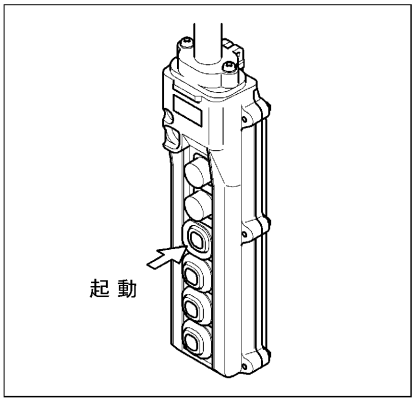
3. 吐出量の設定（ダイヤモンドブレードの回転速度）

◎ 油圧ユニットは、可変容量ピストンポンプを使用してます。吐出量を変えることで、接続した油圧モータの回転数（ダイヤモンドブレードの周速）を任意に設定できます。
◎ 工場出荷時の吐出量は、42／50 L/min（50Hz/60Hz）で設定しています。

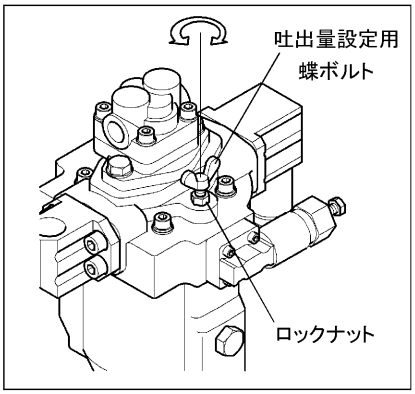
1）リモートコントロールスイッチの『起動』ボタンを押し、油圧ユニットを起動させてください。

ポイント

吐出量の変更は、必ず油圧ユニットを起動させた状態で行ってください。



2） 片口スパナ（13mm）でロックナットをゆるめ、吐出量設定用蝶ボルトを回して吐出量を設定してください。



① 吐出量を「最大」に設定してください。
吐出量「最大」の位置は、吐出量設定用蝶ボルトが軽くなるところまでゆるめ、そこから吐出量設定用蝶ボルトが軽く当たるところまで締込んだ位置です。

② 15ページの「油圧ユニットの吐出量設定表」を参照に、任意の吐出量に設定してください。
吐出量を減少させる場合は、吐出量設定用蝶ボルトを締込む方向に回し、吐出量を増加させる場合は、ゆるめる方向に回してください。

吐出量の目安　〔L/min〕

絞込み回数 / 電源周波数	0	1	2	3	4	5	最大
50Hz	47．3	43．2	39．0	34．9	30．7	26．6	23．6
60Hz	56．6	51．6	46．7	41．7	36．8	31．8	28．3

⚠ 注 意

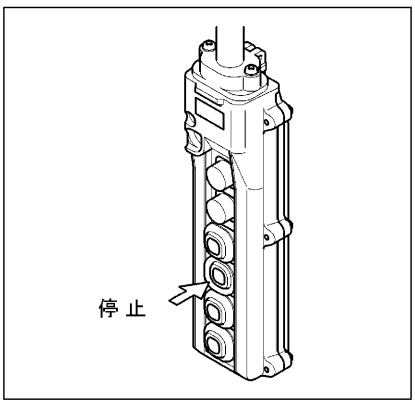
油圧モータの最大流量以内で吐出量を調整してください。最大流量以上で使用しますと故障の原因となります。

ポイント

ダイヤモンドブレードの適性ブレード周速は、一般的には 1200 ～ 1500 m/min と言われますが、被切断物や現場の条件によって異なってきます。条件に応じて回転数の設定を変えてください。

3） 設定後は必ずロックナットを締めて、固定してください。

4） リモートコントロールスイッチの『停止』を押し、油圧ユニットを停止させてください。



4. 吐出圧力（最大負荷圧力）設定方法

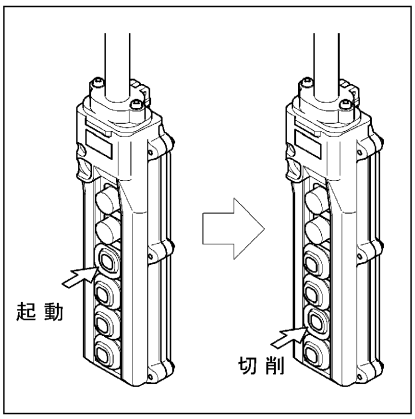
◎ 油圧ユニットに油圧ホース 5／8” 組を接続しない状態で行ってください。

ポイント
油圧ホース組を接続した状態では、油圧ユニットの油圧計に設定圧力が表示されません。

1）油圧作動油の暖気運転を行ってください。
油温が20℃～60℃になりましたら油圧作動油の暖気運転完了です。

2）リモートコントロールスイッチの『起動』ボタンを押し、油圧ユニットを起動させてください。

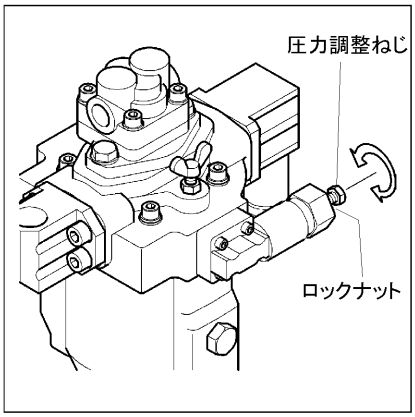
3）油圧ユニットの起動後6秒待ってから、リモートコントロールスイッチの『切削』ボタンを押してください。



4）片口スパナ（13mm）でロックナットをゆるめ、圧力調整ねじを片口スパナ（13mm）で回してください。

5）圧力を上昇させる場合は、圧力調整ねじを締込む方向に回し、圧力を下降させる場合は、ゆるめる方向に回してください。

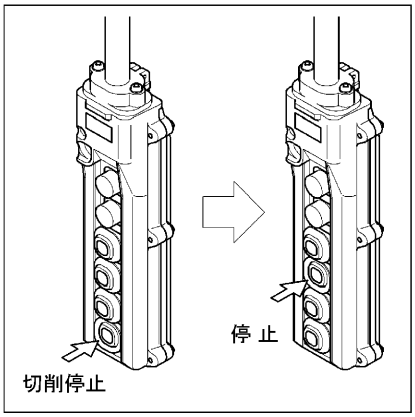
6）油圧計を見ながら21MPaに設定し、片口スパナ（13㎜）でロックナットを締めて固定してください。



⚠ 注 意
圧力の設定は、銘板に表示されている定格圧力を超えないようにしてください。定格圧力以上で使用しますと、油圧モータの故障の原因になります。

7）リモートコントロールスイッチの『切削停止』ボタンを押し、油圧ユニットを停止させてください。

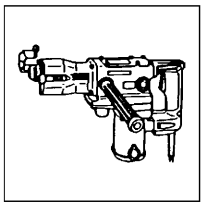
8）リモートコントロールスイッチの『停止』ボタンを押し、油圧ユニットを停止させてください。



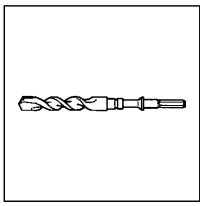
【2】トラックレール 1200LA 取付用のアンカー施工

◎ 使用するハンマードリルの取扱説明書に従い作業してください。

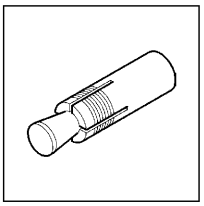
準備するもの



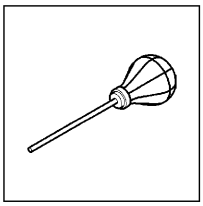
ハンマードリル
…1ケ



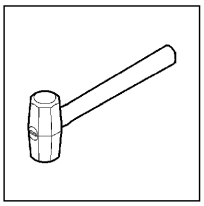
キリ
φ14．5 mm
… 1ケ



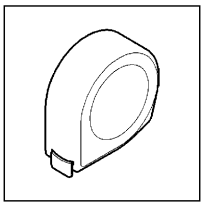
アンカー
W3／8
… 必要数



チリ吹き
… 1ケ



ハンマー
… 1ケ



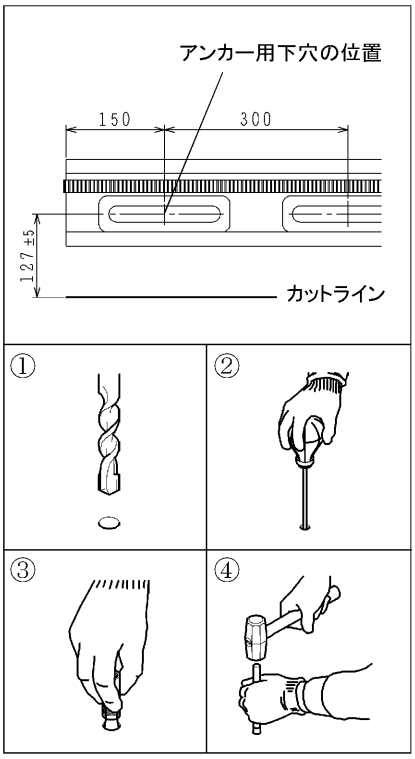
スケール
… 1ケ

① スケールにて、アンカー用下穴の位置を墨付けし、ハンマードリルで下穴（キリサイズ：14．5mm、穴あけ深さ：55mm）をあけてください。

② チリ吹きで穴の中の切り粉を排除してください。

③ アンカーW3／8を穴の中に挿入してください。

④ アンカーW3／8を、打込みホルダーを使用して、ハンマーでしっかり打込んでください。

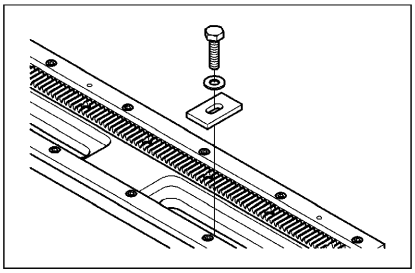


⚠ 警 告

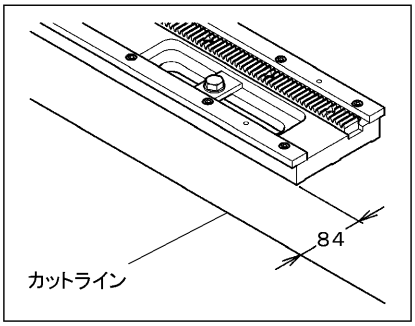
1. 安全の為、トラックレール 1200LA 1本につき、4ヶ所のアンカー固定を行ってください。600LA では2ヶ所、1800LA では6ヶ所となります。
2. 下穴の中に切り粉が残っている場合や、打込み不足は、アンカーが抜けやすくなり大変危険ですので、アンカー施工の知識がある方が施工してください。
3. アンカーは当社指定のカットアンカーを使用してください。

【3】油圧ウォールカッターの取付け

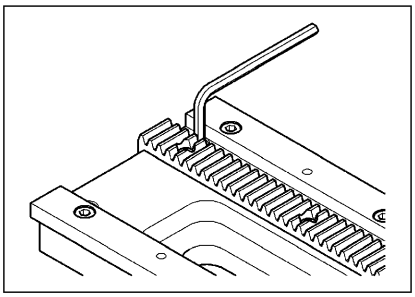
1）トラックレールを、角座金（W3／8×50×30×t6）と平座金（W3／8）と六角ボルト（W3／8×38 mm またはW3／8×50 mm）で固定してください。



2）トラックレールの側面にスケールを当て、カットライン内側までが84mmになるように、位置を調整してください。



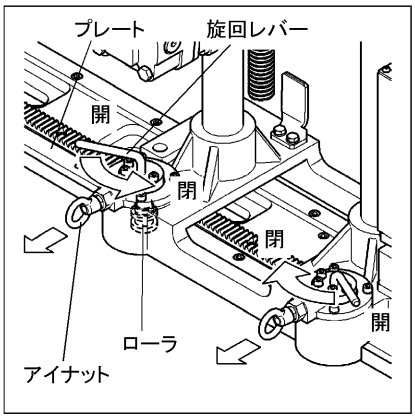
3）六角棒レンチ（5mm）でレベル調整をし、トラックレールをしっかり固定してください。



4）油圧ウォールカッターのベースに付いているアイナットを引いて旋回レバーを開方向（外向き）に回してください。

5）油圧ウォールカッターを持ち上げ、トラックレールの任意の位置でプレートに、ベースのローラをはめ込んでください。

6）油圧ウォールカッターのベースに付いているアイナットを引いて旋回レバーを閉方向（内向き）に回してください。



7）4個のローラとトラックレールのプレートがかみあい、アイナットの先のピンが旋回レバーにはまり込んだことを確認してください。

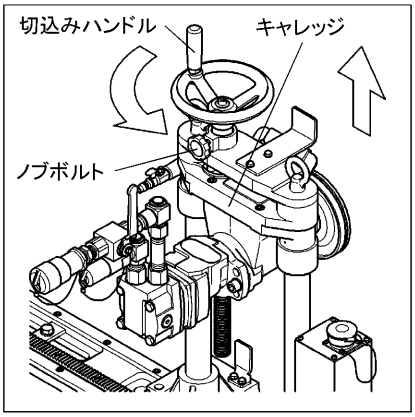
⚠ 警 告

1. 壁面取付けの場合は2人以上で行い、油圧ウォールカッターが落下しないように注意してください。
2. 旋回レバーが閉方向に正しく固定されていないと、ローラがトラックレールのプレートからはずれる恐れがあり大変危険です。

【4】ダイヤモンドブレードの取付け

1）切込みハンドルを反時計周りに回し、キャレッジを最上限位置にして、ノブボルトを締めて固定してください。

2）ダイヤモンドブレードを取付けてください。詳しくは、32ページの「ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずし」を参照してください。

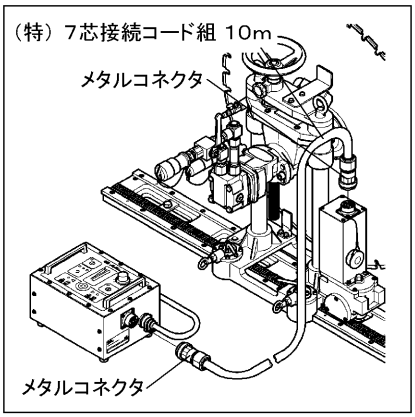


【5】自動送り装置BE－31Aの接続

1）油圧ウォールカッターと自動送り装置BE－31Aを、（特）7芯接続コード組 10mで接続してください。

⚠ 注 意

1. レセプタクルやメタルコネクタがぬれている場合は、十分に乾燥させてから接続してください。
2. メタルコネクタおよび周辺に付着しているゴミ等は、きれいに拭取ってから接続してください。



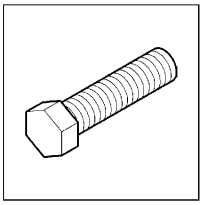
2）自動送り装置BE－31Aのプラグを電源に接続してください。

○ ハードトランス HDT－5Aを使用する場合は、115Vコンセントに差込んでください。

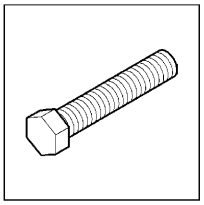
○ 一般的なコンセントを使用する場合は、オプション品の変換アダプタ組を接続してから差込んでください。

【6】トラックレールの連結

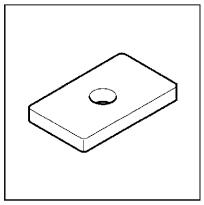
準備するもの



六角ボルト
W3／8×38mm
… 任意数



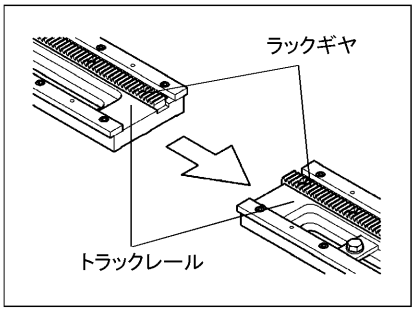
六角ボルト
W3／8×50mm
… 任意数



角座金
W3／8×50×30×t6
… 任意数

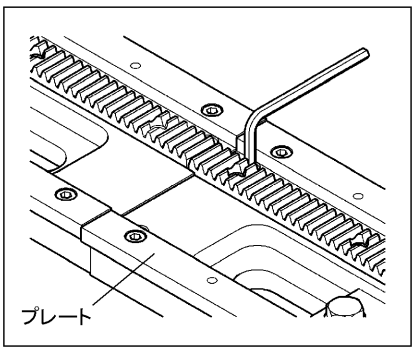
1）21ページの「【1】トラックレール1200LA取付用のアンカー施工」と同様に、トラックレール用のアンカーを打込んでください。

2）ラックギヤを隣のトラックレールにはめ込んで、トラックレールの端面どうしを密着させて、 角座金・平座金・六角ボルトで固定してください。



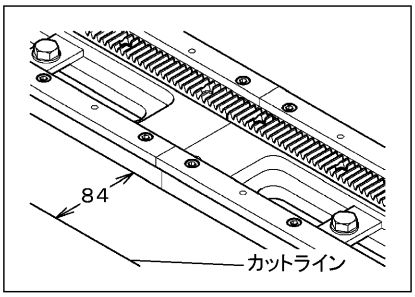
⚠ 警 告
壁面取付けの場合は、トラックレールが落下しないよう注意してください。

3）プレートの合わせ面に段差がある場合や、トラックレールと切断面が密着していない場合は、 六角棒レンチ（5mm）でレベル調整してください。



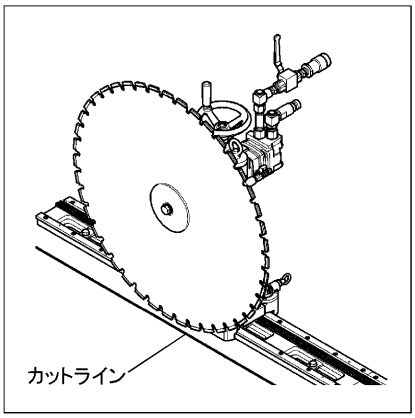
⚠ 注 意
接続部がずれていると、油圧ウォールカッターなどの破損の原因となります。

4）トラックレールの側面にスケールを当て、 カットライン内側までが84mmになるように、 位置調整してください。



⚠ 注 意
トラックレールをハンマーなどで、直接たたかないでください。

5）油圧ウォールカッターを試験走行させ、ダイヤモンドブレードがカットラインにあうようにトラックレールを微調整してください。 （16ページ「【2】自動送り装置BE－31Aによる油圧ウォールカッターの操作方法」を参照してください。）



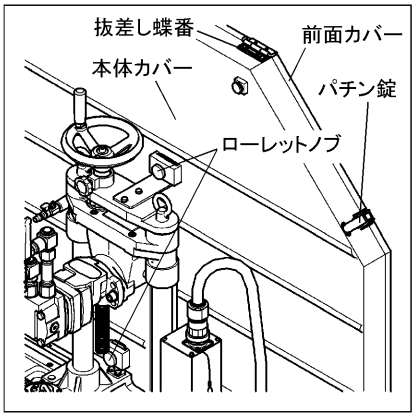
⚠ 警 告
ダイヤモンドブレードは回転させないでください。

6）トラックレールの六角ボルトをラチェットレンチで、しっかり締め固定してください。

【7】ブレードカバーの取付け

1）本体カバーと前面カバーを合わせて、 抜差し蝶番・パチン錠を確実に固定してください。

2）ブレードカバーを油圧ウォールカッターに取付けて、 ローレットノブで確実に固定してください。



3）必要に応じて排水口の位置を移動させ、 排水用ホースの片側を排水口に接続し、 ホースの反対側をバケツ等で受けます。

【8】給水準備

◎ 給水コックを閉じ、 給水用カプラーまたは、 給水用のホースをホースバンドで固定してください。

⚠ 注 意
油圧ウォールカッターの破損の原因になりますので、給水は必ず清水を使用してください。

【9】飛散水の処理対策

1. 現場に応じた飛散水の処理対策

◎ 切削水が飛び散りますので、 シートを張るなどの対策を行ってください。

⚠ 注 意
貫通側の飛散水の処理対策も行ってください。

2. フィード部への飛散水の処理対策

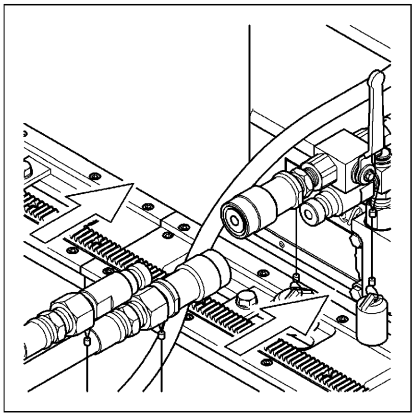
◎ 給水をしながらダイヤモンドブレードを回転させ、フィード部に水が飛び散る場合、 飛散水の処理対策を行ってください。 対策できない場合は、 作業を中止してください。

⚠ 注 意
1. フィード部内のフィードモータや内部配線に水が入りますと故障の原因となります。 2. 壁面の垂直切断（上下方向切断）で、フィード部が下側にあるときは、 特に注意してください。

【10】切断作業

⚠ 警 告
油圧ウォールカッターなどに異常が発生した場合は、油圧ユニットのリモートコントロールスイッチの『停止』ボタンを押し、ダイヤモンドブレードの回転を止め、作業を中止してください。

1）油圧ホース組5／8”を油圧ウォールカッターに接続してください。



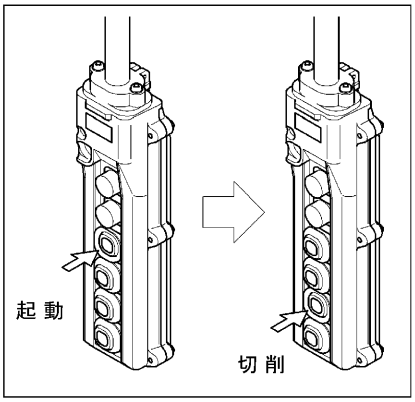
⚠ 注 意
1. FFカプラーは、カチッというところまで押込んで接続してください。 2. FFカプラーにゴミ・泥などが付着しているときは、きれいな布などで拭きとってから接続してください。

2）水道の蛇口をあけ、給水コックを徐々に開き、給水量を調整してください。

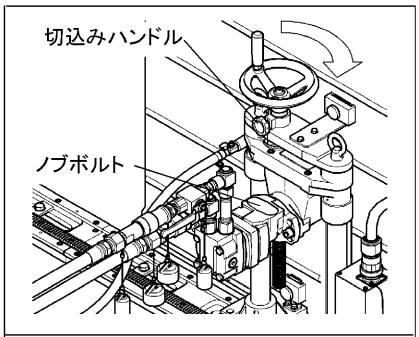
⚠ 注 意
1分間に3リットル程度給水してください。

3）油圧ユニットのリモートコントロールスイッチ『起動』ボタンを押し、油圧ユニットを起動させ、リモートコントロールスイッチ『切削』ボタンを押し、ダイヤモンドブレードを回転させてください。

○ 切替えバルブが閉じている場合は、ゆっくり開いてダイヤモンドブレードを回転させてください。



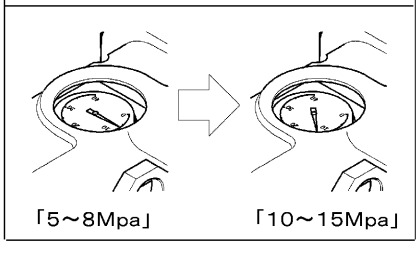
4）ノブボルトをゆるめ、切込みハンドルでダイヤモンドブレードを被削物へ切り込み、所定の深さになりましたらノブボルトを締込み切込みハンドルをロックしてください。
（切込みハンドル1回転当たり、5mm移動します）



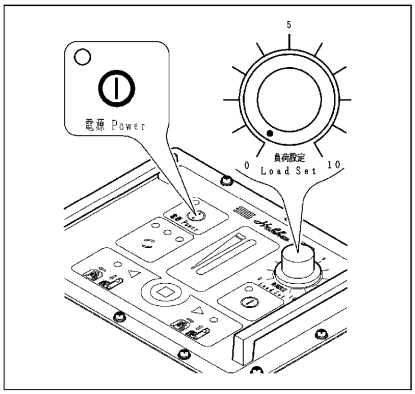
⚠ 注 意
無理な力での切込みはしないでください。

◎ 10 ～ 30mm 切込むまでは、油圧ユニットの圧力が 5 ～ 8MPa の範囲になるように切込み速度を調整してください。

◎ 10 ～ 30mm まで切込みが進みましたら、油圧ユニットの圧力が 10 ～ 15MPa になるように所定の深さまで切込んでください。

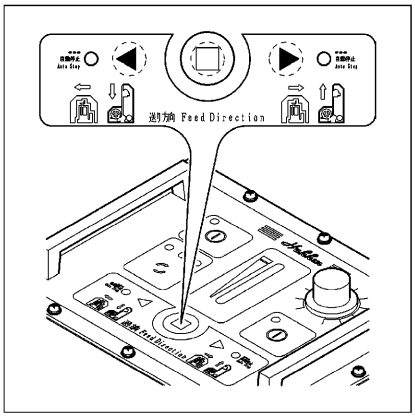


5）自動送り装置BE－31Aの『負荷設定ボリューム』を「0」にして、『電源ボタン』を押し、「電源ランプ」を点灯させてください。



6）「手動ランプ」が点灯していることを確認してください。そうでない場合は、自動送り装置BE－31Aの『切替ボタン』を押し、「手動ランプ」を点灯させてください。

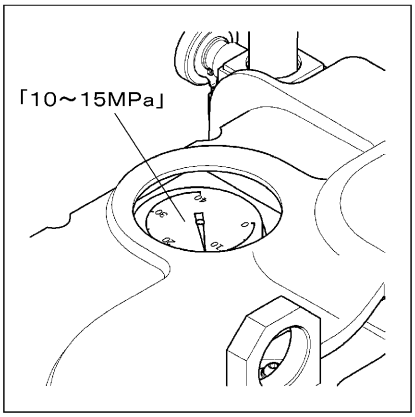
7）自動送り装置BE－31Aの『送り走行ボタン（順方向）』または、『送り走行ボタン（逆方向）』を押し、切断走行させてください。



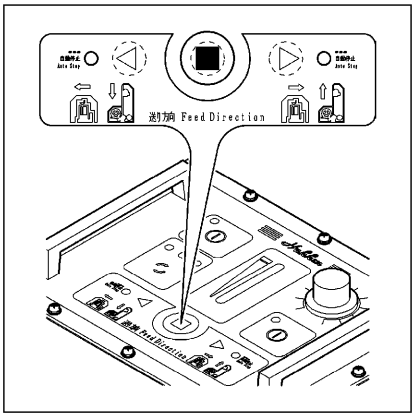
8）油圧ユニットの圧力が 10 ～ 15MPa になるように、『負荷設定ボリューム』を調整してください。

ポイント

被削物の状況によって、油圧ユニットの圧力は常に変化します。切断中は、走行スピードを常時調整してください。



9）所定の切断長を切断しましたら、自動送り装置BE－31Aの『走行停止ボタン』を押し、走行を停止してください。



10）以上の4）～9）までの操作を繰り返し、所定の深さまで切断作業を続けてください。

11）ステップ切り（ダイヤモンドブレード30”以上）をする場合

⚠ 警 告
ダイヤモンドブレードを交換するときは、万一の事故を防止するために、油圧ユニットを完全に停止させてから行ってください。

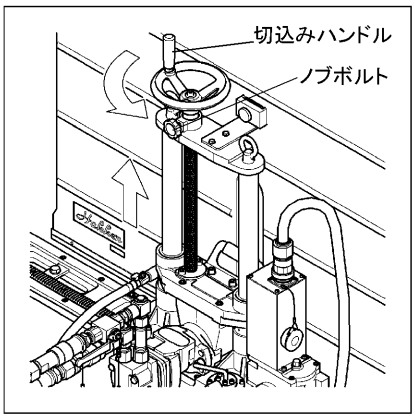
①ブレードカバーとダイヤモンドブレードを取りはずします。

②切断している溝へ、ダイヤモンドブレード（30”以上）を入れてください。

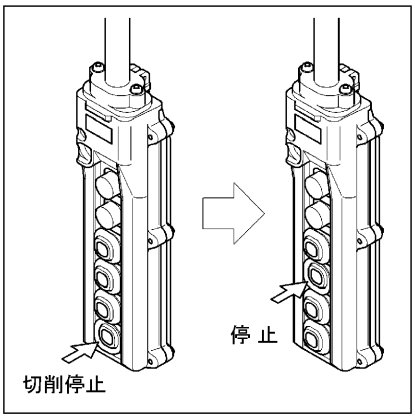
③ダイヤモンドブレードが溝に入ったままの状態で、ダイヤモンドブレードを取付けてください。詳しくは、32ページ「ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずし」を参照してください。

④ダイヤモンドブレード径に合ったブレードカバーを取付けてください。

12）切断作業が完了したら、ノブボルトをゆるめ、切込みハンドルを時計方向に回してダイヤモンドブレードを被削物中より引上げ、ノブボルトを締めてください。

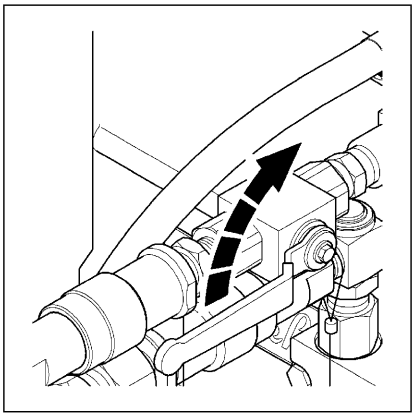


13）リモートコントロールスイッチの『停止』ボタンを押し、油圧ウォールカッター・油圧ユニットを停止させてくださ



○ 切替えバルブでダイヤモンドブレードの回転を止める場合は、切替えバルブをゆっくり閉じてください。

⚠ 警 告
切替えバルブを急に閉じると、油圧モータの回転が急停止し、その反動でダイヤモンドブレードがはずれる恐れがありますので注意してください。



14）給水を止めてください。

【11】取りはずし作業

⚠ 警 告
万一の事故を防止するために、油圧ユニットを完全に停止させてから行ってください。

1） 油圧ホース組5／8”・給水ホースを取りはずしてください。

⚠ 注 意
油圧ホース 5／8”組を取りはずした際は、カプラー部分にゴミなどの付着がないように清潔にして、カプラーキャップを取付けてください。

ポイント

1. 油圧ホース 5／8”組を取りはずす際にカプラーにゴミ等が付着していると、カプラーの接合部（へこみ部分）が戻りにくくなることがあります。この状態で油圧ウォールカッターが油圧ユニットより高所にあり、油圧ウォールカッター側から油圧ホース 5／8”組を取りはずすと油圧ホース 5／8”組内に空気が入り込みます。その結果、油圧作動油が油圧作動油タンクからあふれる可能性があります。油圧ホース 5／8”組は、油圧ユニット側から先に取りはずしてください。
2. 給水を停止したことを確認して、給水ホースの取りはずしを行ってください。

2）ブレードカバーのローレットノブをゆるめ、ブレードカバーを取りはずしてください。

⚠ 注 意
ブレードカバー内に残った切削水やヘドロがあふれ出ないように注意してください。

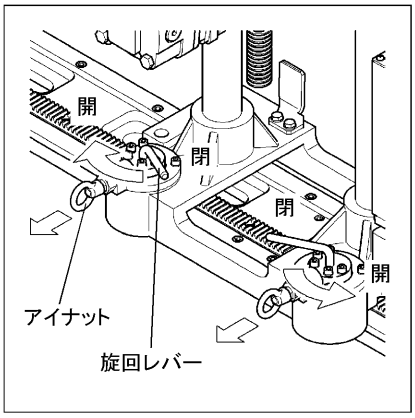
3）ダイヤモンドブレードを取りはずしてください。 取りはずし方法は、32ページの「ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずし」を参照してください。

4）自動送り装置BE－31Aの電源プラグを取りはずしてください。

5）油圧ウォールカッターから、（特）7芯接続コード組 10mを取りはずしてください。

⚠ 注 意
1. メタルコネクタおよび周辺に付着している水分は、きれいに拭きとってから取りはずしてください。 2. 取りはずしのときは、コードを引張って抜かないでください。 3. 油圧ウォールカッターのレセプタクルには、キャップを取付けてください。

6）油圧ウォールカッターのベースに付いているアイナットを引いて、旋回レバーを開方向に回してください。



7）油圧ウォールカッターを持ち上げ、トラックレールから取りはずしてください。

⚠ 警 告
壁面設置の場合は、必ず2人以上で取りはずしを行い、油圧ウォールカッターが落下しないように注意してください。

8）トラックレールを取りはずしてください。

⚠ 警 告
壁面設置の場合は、トラックレールが落下しないように注意してください。

9）切断部を清掃して完了です。

10．油圧ウォールカッターの分離 ・ 組付け方法

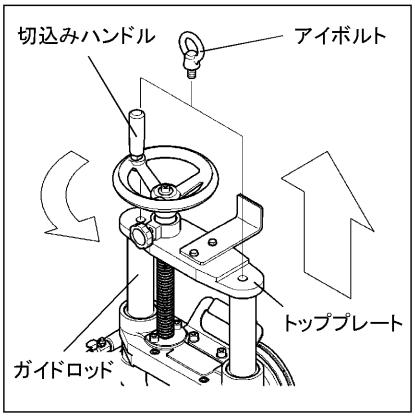
⚠ 警 告
万一の事故を防止するために、 油圧ユニットを完全に停止させてから行ってください。

【1】油圧ウォールカッターの分離方法

1）ラチェットレンチなどの工具を、 アイボルトに引掛けて回し、 アイボルトをはずしてください。

2）切込みハンドルでキャレッジを最上限位置まで動かし、さらに切込みハンドルを回して、 切込みハンドル・トッププレートを取りはずしてください。

3）キャレッジをガイドロッドから抜き取ってください。

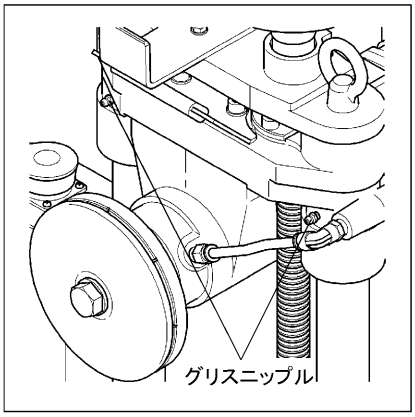


⚠ 警 告
油圧ウォールカッターを分離させる場合は、 ベースを固定した状態で行わないと、 キャレッジを抜き取る際にケガをする恐れがあります。

【2】油圧ウォールカッターの組付け方法

◎ 油圧ウォールカッターの組付けは、 上記分離と逆手順に行ってください。

ポイント
1. キャレッジのガイドロッド差込み口内に、グリースがあることを確認して少なければ組付けた状態で、グリスニップルから補充してください。 2. スライド部分にゴミ等の付着を防止するため、分離した状態で長時間放置しないでください。



11．ダイヤモンドブレードの取付け ・ 取りはずし

⚠ 警 告
ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずしのときは、 万一の事故を防止するために、 油圧ユニットを完全に停止させてから行ってください。

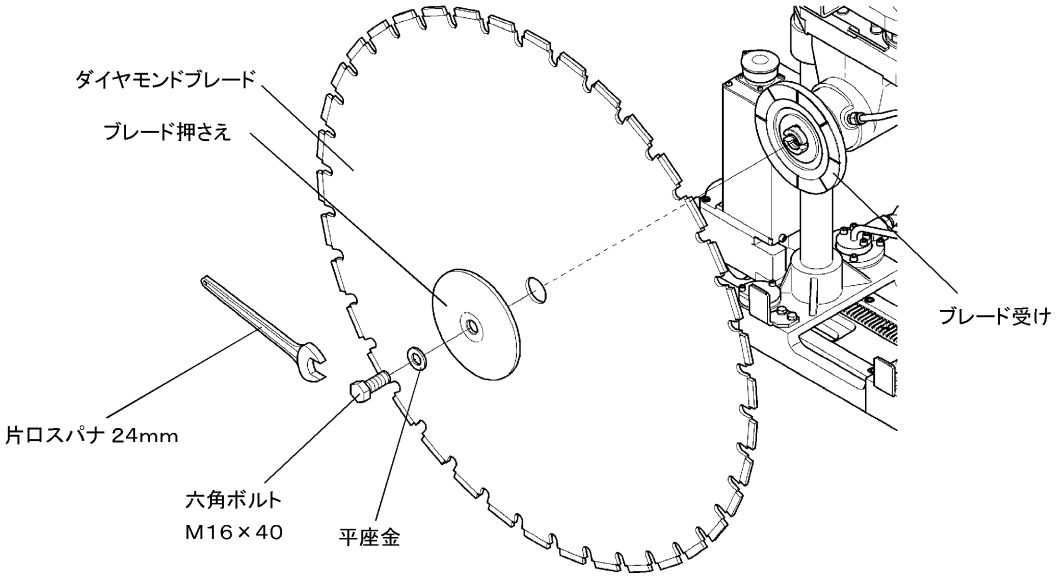
【1】ダイヤモンドブレードの取付け

1）片口スパナ（24 mm）で、 六角ボルト・平座金・ブレード押さえをはずしてください。

2）ダイヤモンドブレードを取付けてください。

3）ブレード押さえ・平座金・六角ボルトを取付け、 片口スパナ（24 mm）で、 六角ボルトをしっかり締付けてください。

⚠ 注 意
1. ダイヤモンドブレードを取扱うときは、 手袋などを使用し、 ケガのないように注意してください。 2. ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずしのときは、ダイヤモンドブレードの下側を持たないでください。 3. ダイヤモンドブレードがメインシャフトからはずれる事がありますので、六角ボルトで固定するまでは手を離さないでください。 4. ダイヤモンドブレードの取付け・取りはずしのときは、 切替えレバーを開き、 油圧ホース組5／8”をつないだ状態で行ってください。 油圧回路を遮断した状態でブレード受けまたはダイヤモンドブレードをまわすと、 油圧モータの故障の原因となります。



【2】ダイヤモンドブレードの取りはずし

◎ 取りはずしは、 上記取付けと逆の手順で行ってください。

12．作業中のトラブルと対策

【1】作業中のトラブルと対策方法

作業中に異常を感じたら、ただちに油圧ユニット・油圧ウォールカッターを停止して、安全な状態で、下表にて原因の調査を行ってください。

トラブル	原 因	対策方法
自動送り装置BE－31Aの「バーグラフメータ」上端ランプ（オレンジ色）が点滅する	電源電圧が高すぎる（140V以上）	正常な電源に接続しなおす
自動送り装置BE－31Aの「バーグラフメータ」下端ランプ（グリーン色）が点滅する	電源電圧が低すぎる（78V以下）	正常な電源に接続しなおす 一時的な電圧降下の場合、電源電圧が正常に戻った後、『電源ボタン』を押して復帰（リセット）する
自動送り装置BE－31Aの「送り走行ランプ」が点滅する	フィードモータに無理がかかりすぎたため、過負荷保護装置が働いている	『走行停止ボタン』または、『電源ボタン』を押し、点滅を解除し、過負荷の原因を取除く
油圧ウォールカッターが停止した	油圧ウォールカッターおよびブレードカバーが障害物に接触している	障害物を取除く
	トラックレールの固定に寸切ボルトなどを使用して、ボルトがベース にあたるなど走行障害になっている	ボルトを交換するか、寸切ボルトを締めなおしベースにあたらないようにする
	ローラまたはラックギヤにゴミが付着している	清掃または修理
	ラックギヤが破損している	修理
	トラックレールのスライド面が変形している	修理
自動送り装置BE－31Aの『送り走行ボタン』を押しても油圧ウォールカッターが走行しない	フィードギヤボックスが破損している	修理
	フィードモータの故障	修理
	（特）7芯接続コード組 10mの断線	修理
ダイヤモンドブレードが回転しない	油圧ユニットのトラブル	油圧ユニットの取扱説明書を参照
	油圧ホース5／8”組の接続不良	FFカプラーの接続をやり直す
切込みハンドルが回らない	ノブボルトが締まっている	
	フィードスクリューにゴミなどが付着している	フィードスクリューを掃除し、グリースを塗布する
切断速度が遅い	鉄筋を切断している	無理に力をかけずに切断する
	ダイヤモンドブレードのチップが磨耗している	新品交換
	ダイヤモンドブレードが切れない	コンセック各営業所に相談
	油圧ユニットの油温が高い	油圧ユニットの取扱説明書「作業中のトラブルと対策」を参照
	油圧モータに力がない	油圧ユニットの取扱説明書「作業中のトラブルと対策」を参照
振動がひどい	トラックレールの取付け不良	取付けをやりなおす
	ダイヤモンドブレードが変形している	修理
	メインシャフトが曲がり、芯ぶれしている	修理
ダイヤモンドブレードがロックした	鉄片および混入された石などが、ダイヤモンドブレードと切断面の間にはさまっている	本書「ダイヤモンドブレードがロックした場合の解決方法例」を参照
	ダイヤモンドチップ側面が磨耗して、基盤と同じ厚さになっている	新品交換

【2】ダイヤモンドブレードがロックした場合の解決方法例

⚠ 警 告
万一の事故を防止するために、油圧ユニットを完全に停止させてから行ってください。

1）自動送り装置BE－31Aの『走行停止ボタン』を押して走行を停止し、『電源ボタン』を押し、「電源ランプ」を消灯させてください。

2）油圧ユニットのリモートコントロールスイッチの『停止』ボタンを押し、油圧ウォールカッター・油圧ユニットを停止させてください。

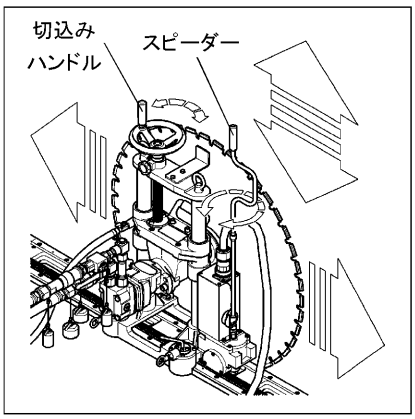
3）ブレードカバーを取りはずしてください。

4）下記の①～③を行い、ダイヤモンドブレードを引き上げられる位置を探ってください。

① 切込みハンドルを回してダイヤモンドブレードを上下させる。

② スピーダ等でフィードギヤボックスの六角頭付を回して、油圧ウォールカッターを送り方向に前後させる。

③ ブレード受けの二面幅にスパナ（46mm）をかけ、ダイヤモンドブレードが動きやすい方向に回す。



⚠ 注 意
1. 送り方向への前後移動や、ダイヤモンドブレードの上下方向移動は無理な力をかけないでください。ダイヤモンドブレードのチップが脱落する恐れがあります。 2. ブレード受けを回す時は、切替えレバーを開き、油圧ホース組5／8”をつないだ状態で回してください。油圧回路を遮断した状態で、ブレード受けを回すと油圧モータの故障の原因となります。

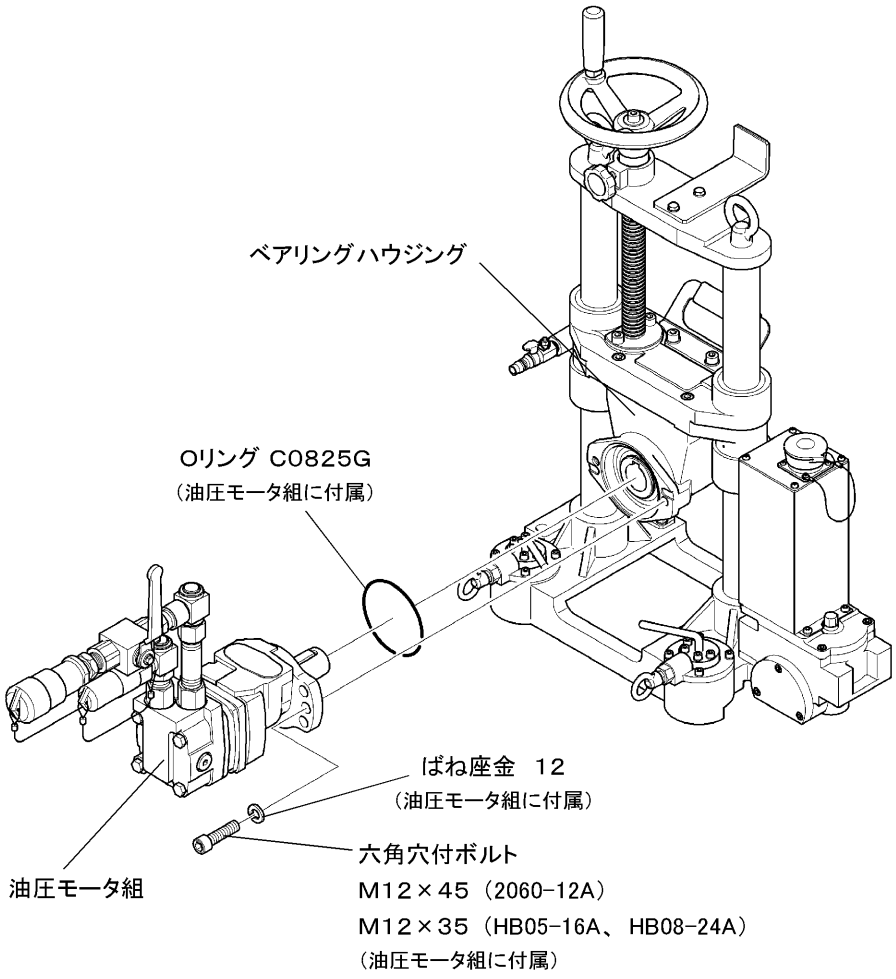
4）切込みハンドルを回して、ダイヤモンドブレードを引上げてください。

5）ロックの原因（鉄片・石など）を取除いてください。

13．油圧モータ組の取付け

⚠ 注 意
ベアリングハウジングと油圧モータ組の合わせ面に隙間ができたり、傾いたりしないよう注意してください。

○ 六角穴付ボルト（2個）・ばね座金 12（2個）・Oリングで、油圧モータ組とベアリングハウジングを六角棒レンチ 10mmで締付け、固定してください。



14．保守 ・ 点検 ・ 修理

【1】保 守

◎ 作業後には、 清掃および保守を行ってください。

⚠ 注 意
1. 清掃作業のときは、必ずフィード部のレセプタクルに、キャップを取付けてください。 2. フィード部には水をかけないでください。 故障の原因となります。

1）作業後は、 表面のよごれの清掃を行ってください。 油圧ウォールカッターの外枠は、 アルミや鉄などを使用しています。 外枠の清掃の時は、 乾いた布で拭いてください。

2）FFカプラーには、 水をかけないようにし、 きれいなウエスなどで拭いてください。

3）ガイドロッドは、 特にきれいにしておいてください。

4）ローラは、 きれいにしておいてください。

5）フィードスクリューには、グリースを塗布しておいてください。

6）トラックレールのレベルボルトには、 注油をしておいてください。

7）ブレードカバーは、 前面カバーをはずして清掃してください。 また、 排水口のツマリを除去しておいてください。

【2】点 検

◎ 油圧ウォールカッター・ブレードカバー・トラックレール・ダイヤモンドブレードに、 亀裂・破損はないか、 油圧ウォールカッターとトラックレールのスライドにガタ付きはないか、 油圧モータ・切替えバルブ・FFカプラーに油漏れがないかを点検してください。 また、 コード被覆部に、 亀裂・ 損傷はないか点検してください。
異常があった場合、 最寄りの「販売店または、 コンセック各営業所」にお問い合わせください。

【3】定期点検

◎ 各部取付ねじのゆるみなどを定期的に点検し、 ゆるんでいる所は締めなおしてください。

⚠ 注 意
ゆるんだままで使用すると、事故などの原因となり大変危険です。

【4】修理について

◎ 本機は厳密な精度で製造されています。 したがって、 正常に作動しなくなった場合には、 決してご自分で修理をしないで、 最寄りの「販売店または、 コンセック各営業所」にお問い合わせください。

◎ その他、 取扱い上でご不明な点がありましたら、 ご遠慮なくお問い合わせください。

15．製品の保管

製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、 下記のような場所は避け、 安全で乾燥した鍵のかかる所に保管してください。

◇お子様の手がとどいたり、 簡単に持ち出せる場所
◇軒先など雨がかかったり、 湿気のある場所
◇温度が急変する場所
◇直射日光のあたる場所
◇引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しない。

本取扱説明書に記載されている商品の外観などの一部を予告なく変更している場合があります。

CONSEC 株式会社コンセック

本　　社　〒733-0833　広島市西区商工センター４－６－８
TEL (082)277-5451　FAX (082)278-6389

事業本部	〒733-0833　広島市西区商工センター４－６－８	TEL (082)277-5452
東京支店	〒134-0083　東京都江戸川区中葛西３－４－５	TEL (03)5696-1323
大阪支店	〒550-0025　大阪市西区九条南３－２５－１２	TEL (06)6582-5186
札幌営業所	〒065-0026　札幌市東区北２６条東６－３－１８	TEL (011)741-5622
秋田営業所	〒011-0917　秋田市飯島道東３－２６－２７	TEL (018)847-2281
仙台営業所	〒984-0013　仙台市若林区６丁目南町９－３８	TEL (022)288-1322
西東京営業所	〒185-0011　東京都国分寺市本多５－１３－７	TEL (042)328-5911
横浜営業所	〒240-0064　横浜市保土ヶ谷 区峰岡町２－３３２	TEL (045)336-0753
金沢営業所	〒920-0364　金沢市松島２－２８	TEL (076)249-8880
名古屋営業所	〒454-0916　名古屋市中川区川前町１１４	TEL (052)419-2150
泉南営業所	〒596-0826　岸和田市作才町６８－１	TEL (0724)26-8556
広島営業所	〒733-0833　広島市西区商工センター８－９－５５	TEL (082)501-3935
岡山営業所	〒700-0945　岡山市新保１１４０－６	TEL (086)225-6555
高松営業所	〒761-8031　高松市郷東町９７８－２	TEL (087)882-3010
松山営業所	〒791-8013　松山市山越５－６－２６	TEL (089)926-4550
北九州営業所	〒802-0825　北九州市小倉南区横代葉山３－１０	TEL (093)963-2594
福岡営業所	〒816-0063　福岡市博多区金の隈２－１８－１９	TEL (092)503-5336
鹿児島営業所	〒892-0846　鹿児島市加治屋町８－３	TEL (099)224-7271

検査合格証		
型式名	CHW－50A	検印
製造番号		